

平成28年度版

連携型中高一貫教育に係るアンケート調査

結果と考察



神石高原町教育委員会

目 次

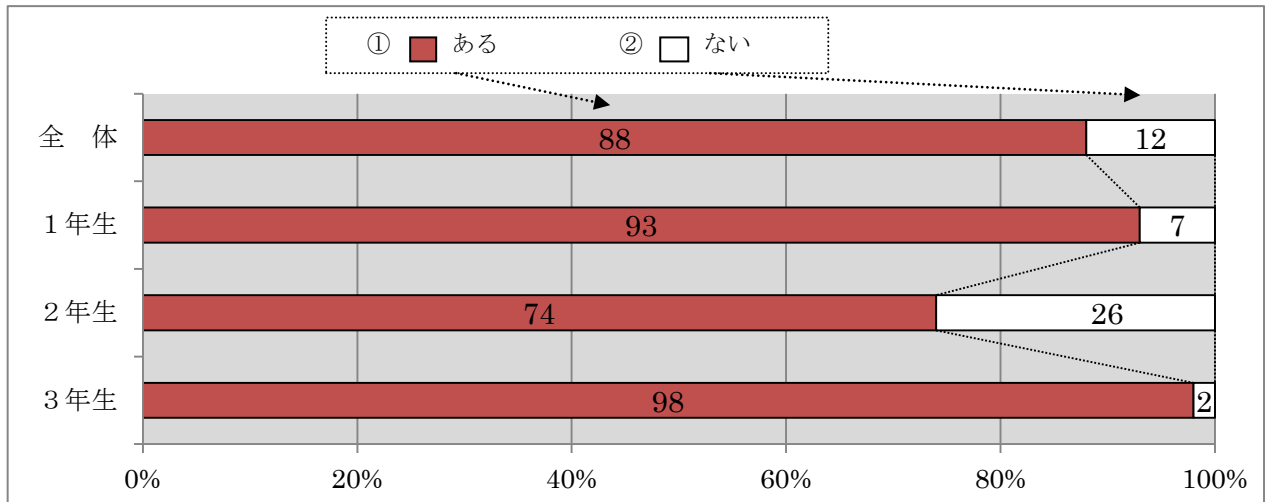
	ページ
I. 中 学 生 編	1 ~ 7
II. 高 校 生 編	8 ~ 12
III. 中・高教職員編	13 ~ 16
IV. 小・中学校保護者編	17 ~ 22
V. 地 域 編	23 ~ 24

回 答 者 数

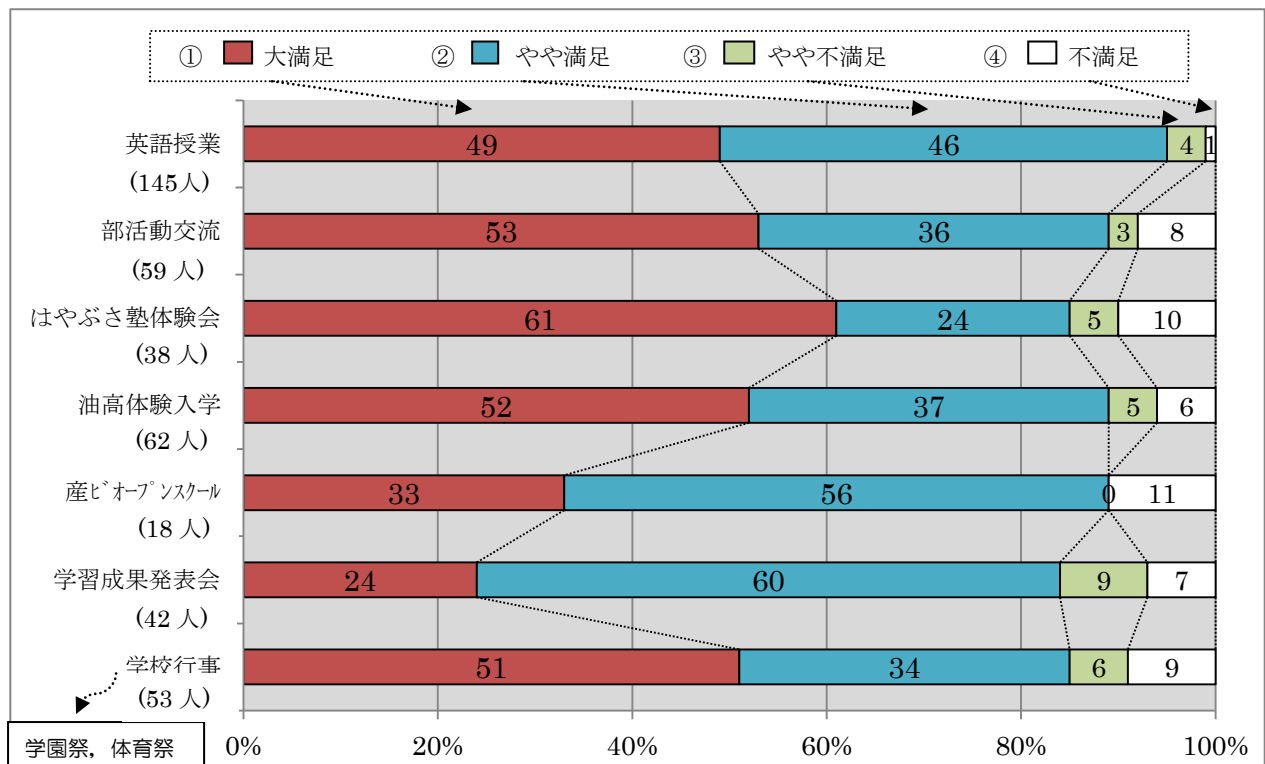
1. 中 学 生	回答者数 <u>173人</u> / 在籍者数 183人
2. 高 校 生	回答者数 <u>180人</u> / 在籍者数 197人
3. 中・高教職員	回答者数 <u>53人</u> / 全教職員数 55人
4. 小学校保護者	回答者数 <u>170人</u> / 対象児童数 175人
5. 中学校保護者	回答者数 <u>140人</u> / 生徒総数 183人
6. 地 域	回答者数 <u>97人</u> / 質問者数 100人

I. 町内中学生 に係るアンケート調査の結果と考察

1(1) あなたは本年度、油木高校の先生や生徒さんから指導してもらったり、行事に参加したことがありますか。



(2) 上記(1)の質問で「① ある」と答えた人で、それはどうでしたか。

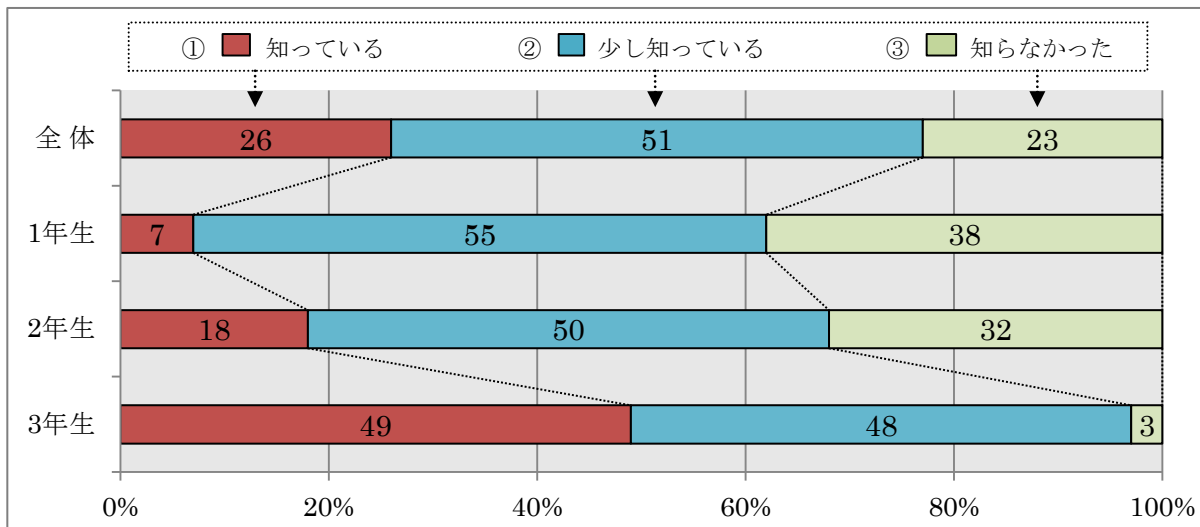


考察 「定例的な英語の交流授業」は学年によって未実施の学校もあり、油木高校との連携教育活動体験者は88%であった。その中で、「英語」の授業満足度は95%が「大満足・やや満足」の高い肯定的回答であった。今後も一層効果的な交流授業を実践していくために、授業研究やアンケート調査などが計画的に実施され、生徒の満足度を高めていく取組がなされることを期待している。

その他の項目(部活動・はやぶさ塾・3年体験入学・産ビオープンスクール・学習成果発表会・学校行事)においても、約85%以上の高い肯定的評価であるだけに、今後も積極的な連携教育活動を展開していく必要がある。

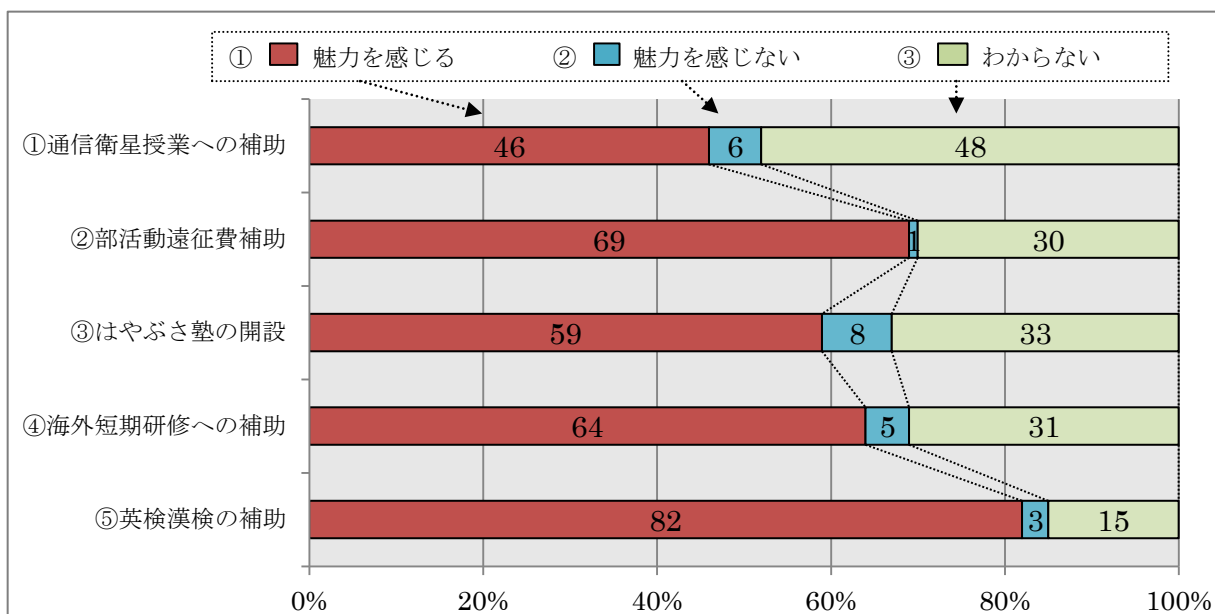
② 神石高原町では「油木高校の魅力づくり」として、色々な支援（通信衛星授業の受信補助・部活動遠征費補助・学習支援塾「はやぶさ塾」の開設・海外短期<語学・農業>研修事業への支援・英語検定受験料補助）を実施していますが、そのことについて次の(1)～(6)の質問に教えてください。

(1) 油木高校への色々な支援内容について知っていますか。



考察 高学年になるほど「知っている」率が高くなっている。しかし、「少し知っている」を含めると 60～90%を占めるが、支援内容の中身は「油木高校の魅力」でもあるので、十分理解してもらうことが重要である。よって、全学年とも引き続き理解度を高めていくための情報提供（7つの支援パソレット）が必要である。

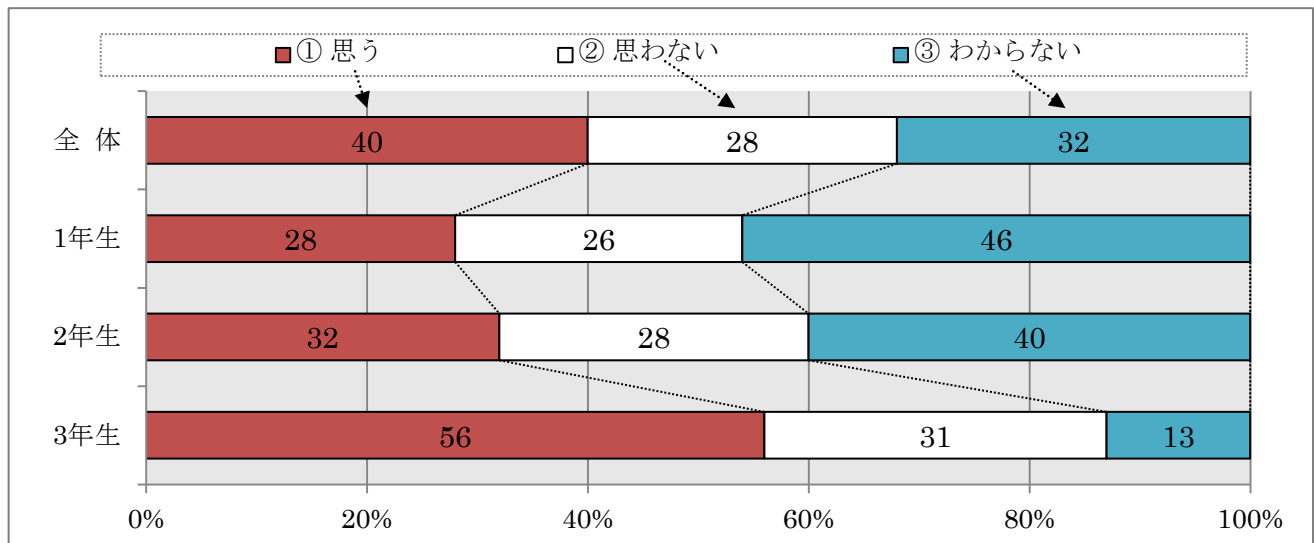
(2) 次のような支援（① 通信衛星授業への補助 ② 部活動遠征費補助 ③ はやぶさ塾の開設 ④ 海外短期研修への補助 ⑤ 英検受験料の補助）についてどう思いますか。



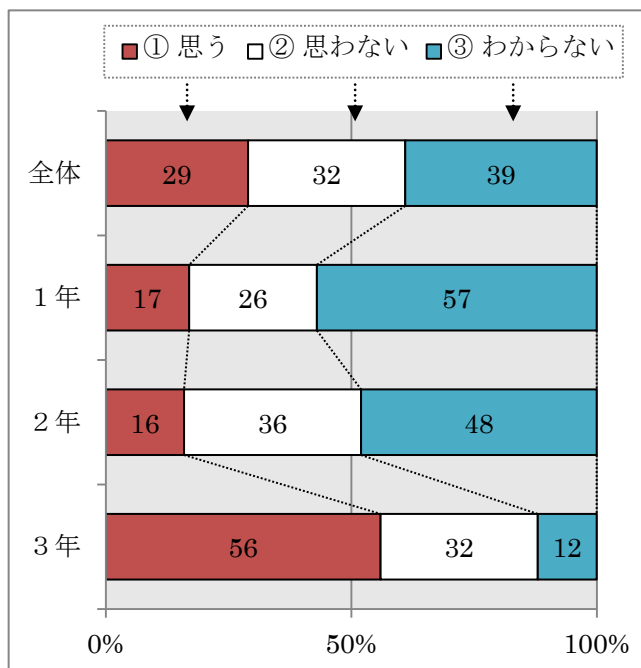
考察 「通信衛星授業への補助」以外の支援は「魅力を感じる」が半数以上を占めており、評価が高い。しかし、中学生にとっては、その中身が分からないこともあるので、十分な説明や「はやぶさ塾体験会」「海外短期研修報告会」などを実施してもらいながら支援アピールに努めていく必要がある。

③ (1) あなたは油木高校に進学したいと思いますか。

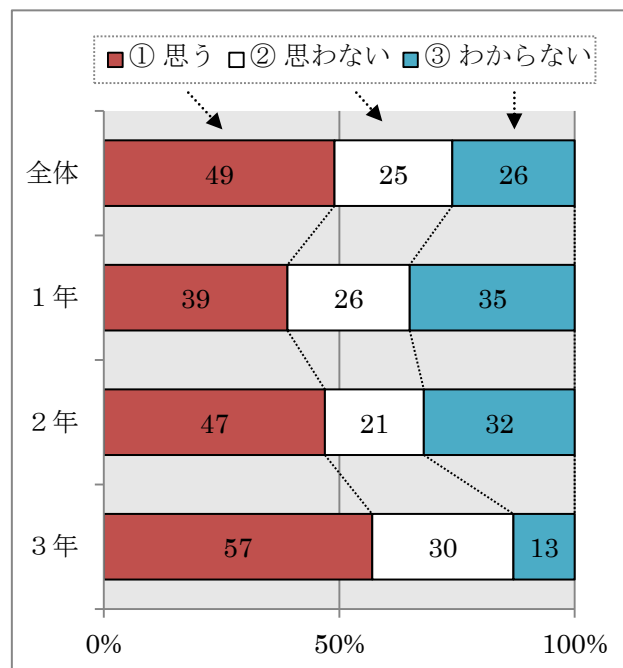
< 2校全体では >



< 三和中 >



< 神石高原中 >



考察 全体では、油木高校へ進学したいと「思う」は40%と（前年49%、前々年40%）、前年より減少した。一方「思わない」は28%で（前年19%、前々年24%）、過去2番目に高い数値であった。

学年別では、3年生が例年のごとく「思う」が50%以上と格段に高い。1・2年生は約30%と低調である。

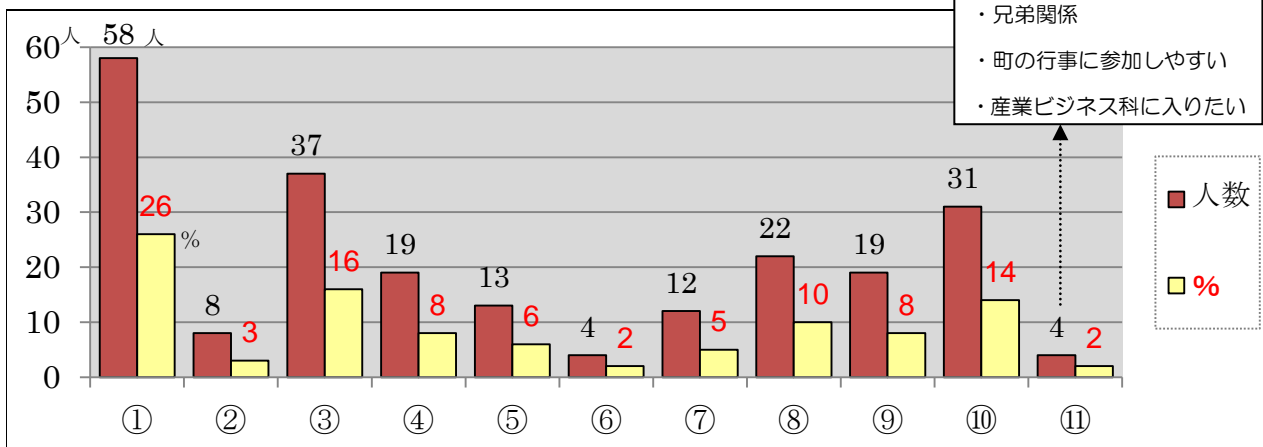
一方、学校別では、3年生は両校とも同じようであるが、1・2年生は両校にかなりの差が見られる。それだけに、今後三和中学校への掘り起こし対策を考えていく必要がある。

いずれにしても、今後において油木高校への地元率は最低でも60%以上を目標に、尚かつ学年54人以上（学年定員80人の2/3以上：県教委の指針数値）の生徒確保が重要である。この数値をお互い意識して取り組んでいく必要がある。

(2) 3(1)の質問で「① 思う」と答えた人で、その理由と思うものを次の中から選んでください。(複数回答可)

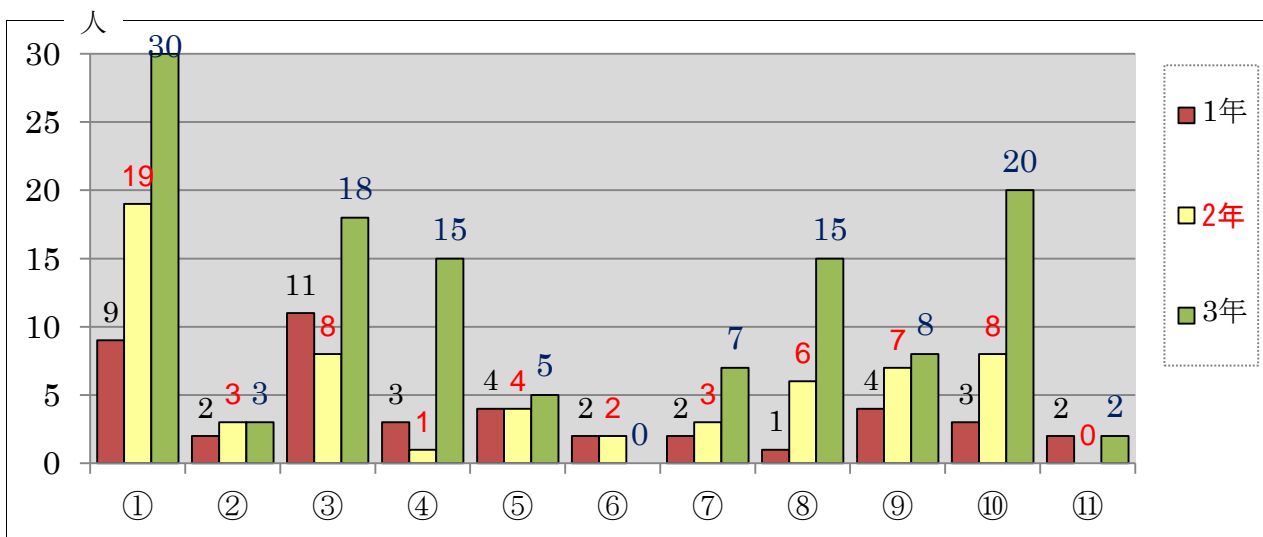
- ① 通学に便利 ② 進路実績 ③ 自分の希望 ④ 教育内容面 ⑤ クラブ活動面 ⑥ 寮がある
 ⑦ 施設設備がよい ⑧ 町の色々な支援制度がある ⑨ 親・家族のすすめ ⑩ 友人関係 ⑪ その他

<2校全体では>



- ① 通学に便利 ② 進路実績 ③ 自分の希望 ④ 教育内容面 ⑤ クラブ活動面 ⑥ 寮がある
 ⑦ 施設設備がよい ⑧ 町の色々な支援制度がある ⑨ 親・家族のすすめ ⑩ 友人関係 ⑪ その他

<学年別の人数では>



考察 ・2校全体で多い順は、1位:①「通学に便利」(26%)、2位:③「自分の希望」(16%)、3位:⑩「友人関係」(14%)と続いている。このことから、最も多く「通学に便利」と答えているだけに、地元高校の存続は今後も堅持していく必要がある。

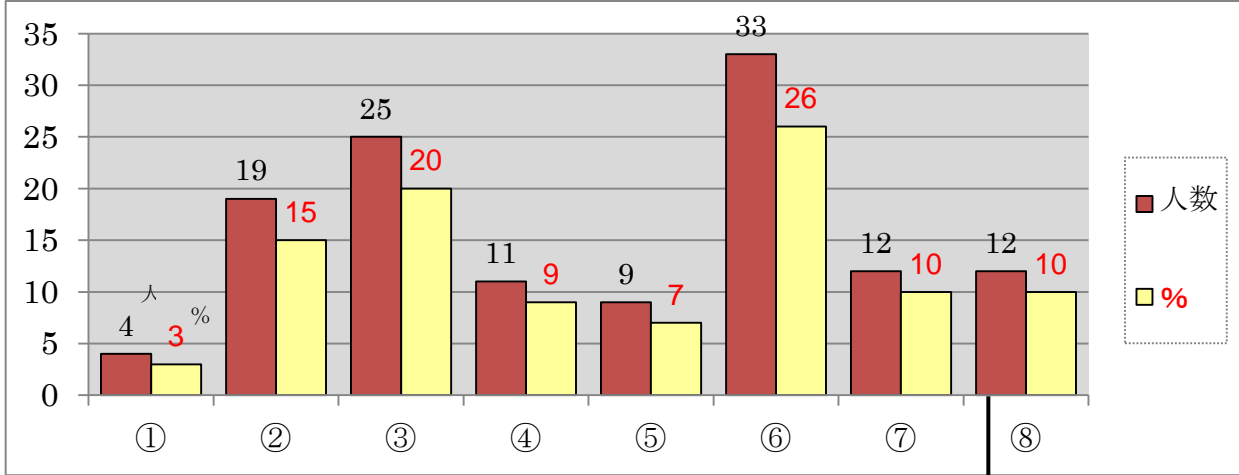
・学年別で特徴的なものとして、3年生が④「教育内容面」、⑧「町の色々な支援制度がある」、⑩「友人関係」を多くあげている。

・全体的に高学年ほど多項目にわたって複数回答している生徒が多く見られる。これは、油木高校の良さを多方面にわたって感じていると思われる。そのことを低学年にも浸透するように情報提供していく必要がある。

(3) 3(1)の質問で「② 思わない」と答えた人で、その理由と思うものを次の中から選んでください。(複数回答可)

- | | | | |
|------------|------------|----------|---------|
| ① 通学が不便 | ② 教育内容面 | ③ クラブ活動面 | ④ 施設設備面 |
| ⑤ 希望の学科がない | ⑥ 高卒後の進路面で | ⑦ 友人関係 | ⑧ その他 |

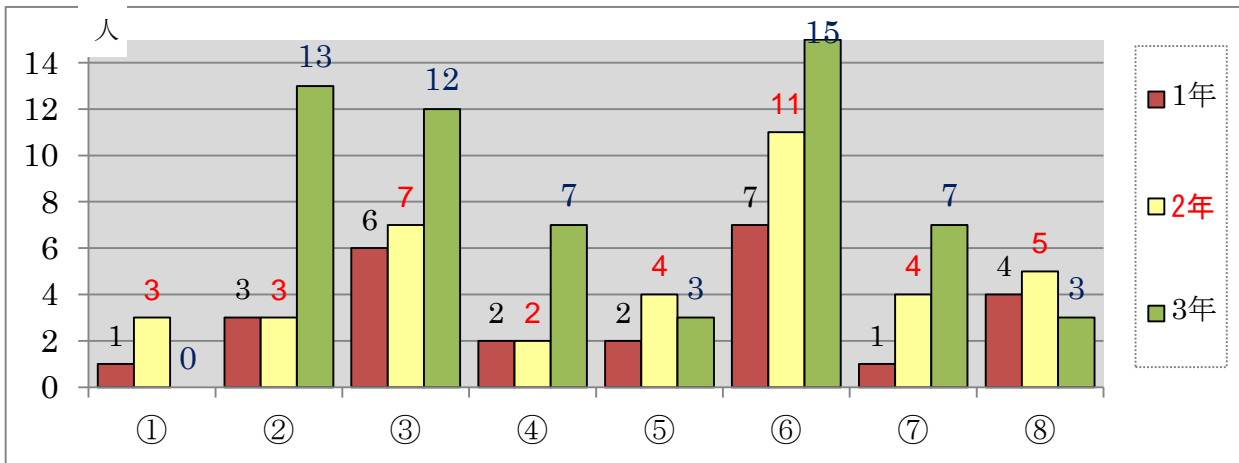
<2校全体では>



・他の高校に行きたいから(3) ・問題が多く、学力も高くないから(2) ・生徒の規則正しさが無い ・人間関係
 ・生徒や先生に問題がある ・油木高に通うのが恥ずかしい ・学校の周りに何も無いから ・遠くに行きたい など

- | | | | |
|------------|------------|----------|---------|
| ① 通学が不便 | ② 教育内容面 | ③ クラブ活動面 | ④ 施設設備面 |
| ⑤ 希望の学科がない | ⑥ 高卒後の進路面で | ⑦ 友人関係 | ⑧ その他 |

<学年別の人数では>

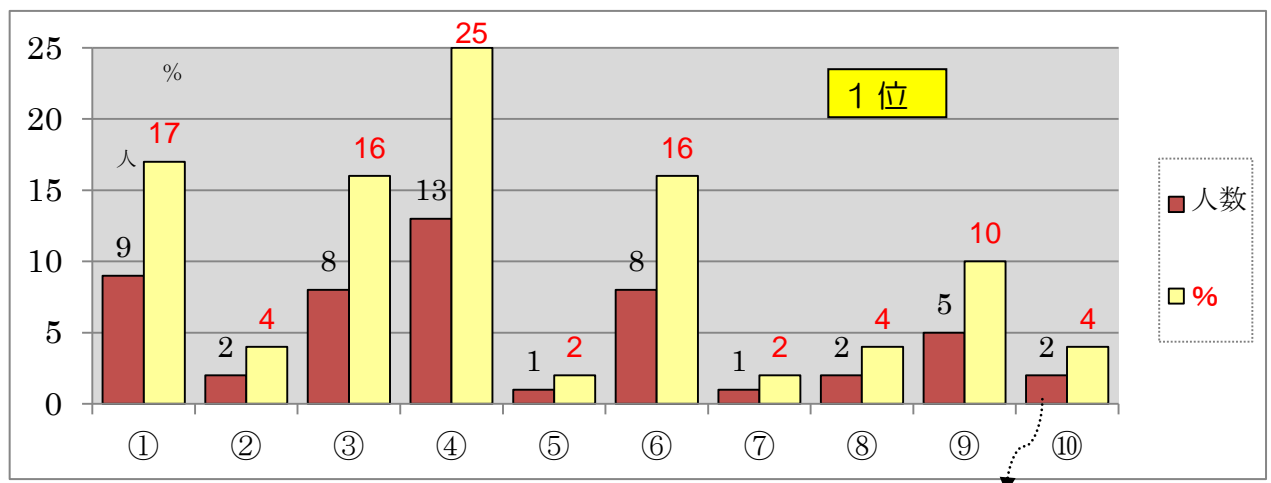


考察 ・2校全体で多いのは、1位：⑥「高卒後の進路面で」(26%)、2位：③「クラブ活動面」(20%)、3位：②「教育内容面」(15%)となっており、ほぼ例年と同様であった。一方、⑧「その他」の意見が例年になく多く、生徒の方にも様々な情報が流れていることが伺われる。
 ・「高卒後の進路面」についての不安が多くあるようだが、「油木高校の進路指導や進路実績」を分かりやすく紹介したり、大学受験に効果的な通信衛星授業や公設塾などをしっかりとアピールしていく必要がある。
 ・各中学校共に実施して頂いていると思うが、地元の高校生(出身中学生)が頑張っている姿を機会あるごとに後輩中学生に今後も語って頂くことをお願いしておきたい。←(高校は中学校へしっかり情報提供していく)

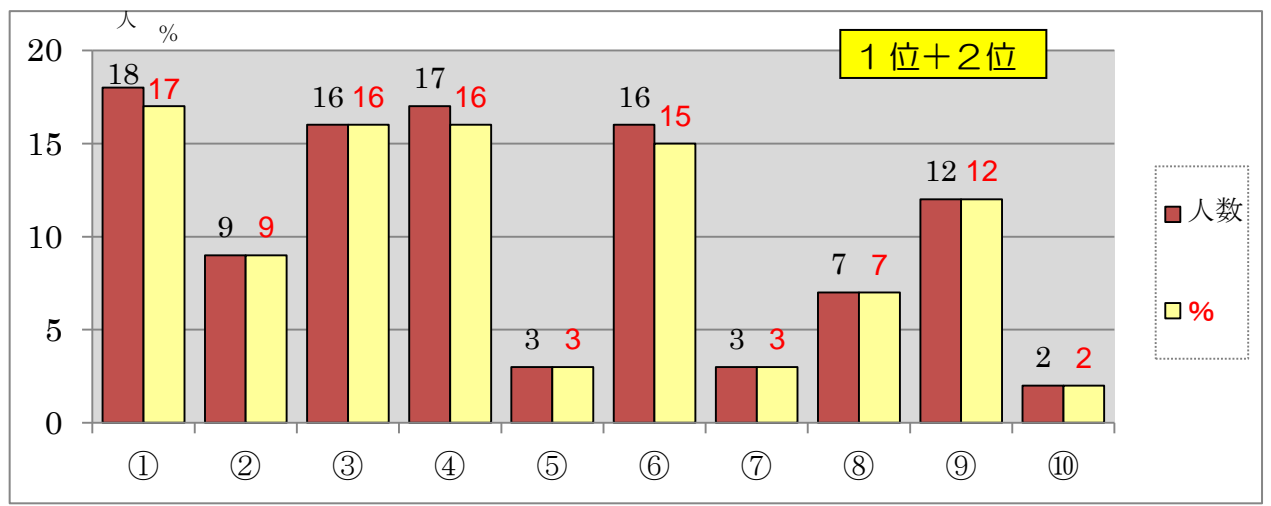
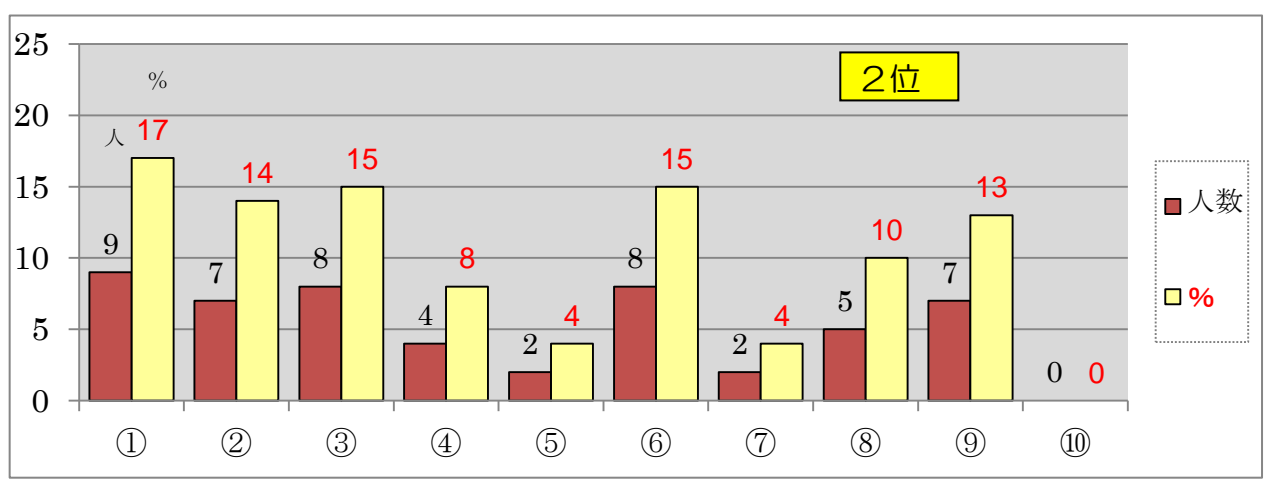
(4) 3(1)の質問で「③ わからない」と答えた人で、今後自分が進路選択する(高校を選ぶ)上で、重要視したいことは
 どんなことですか。 下記の①～⑩の中から重要視したい順番に2つ選び、番号で教えてください。

- | | | | | |
|----------|----------------|------------|---------|---------|
| ① 通学便 | ② 伝統や校風 | ③ 進路実績 | ④ 教育内容面 | ⑤ 施設設備面 |
| ⑥ クラブ活動面 | ⑦ 市町からの色々な支援制度 | ⑧ 親や家族のすすめ | ⑨ 友人関係 | ⑩ その他 |

<2校全体では>

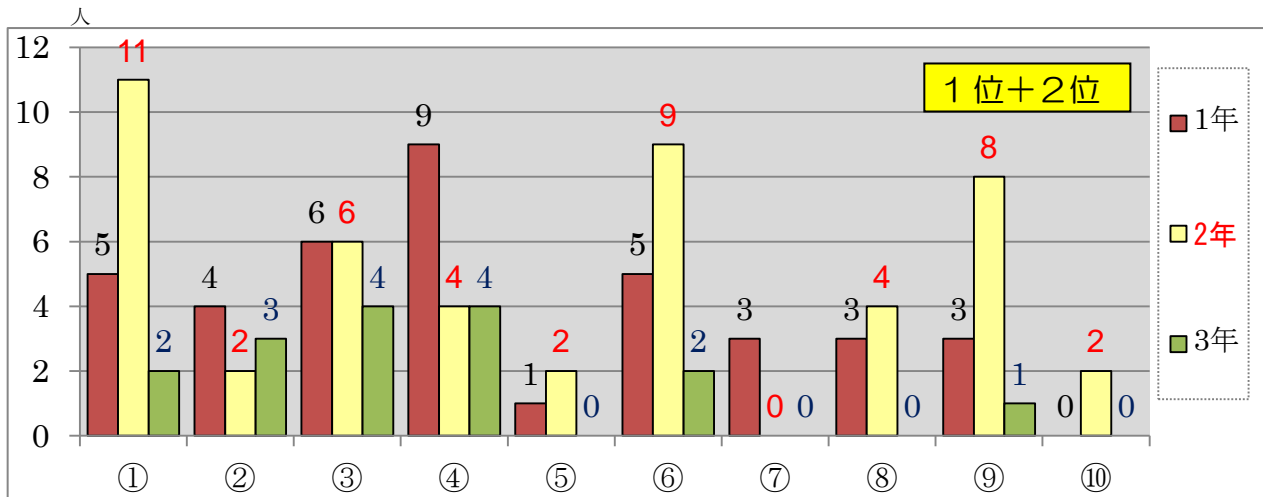
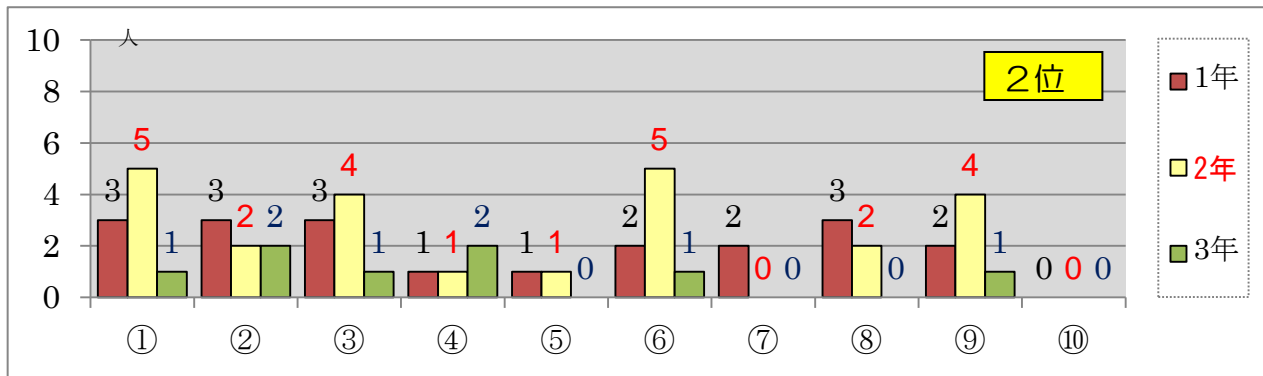
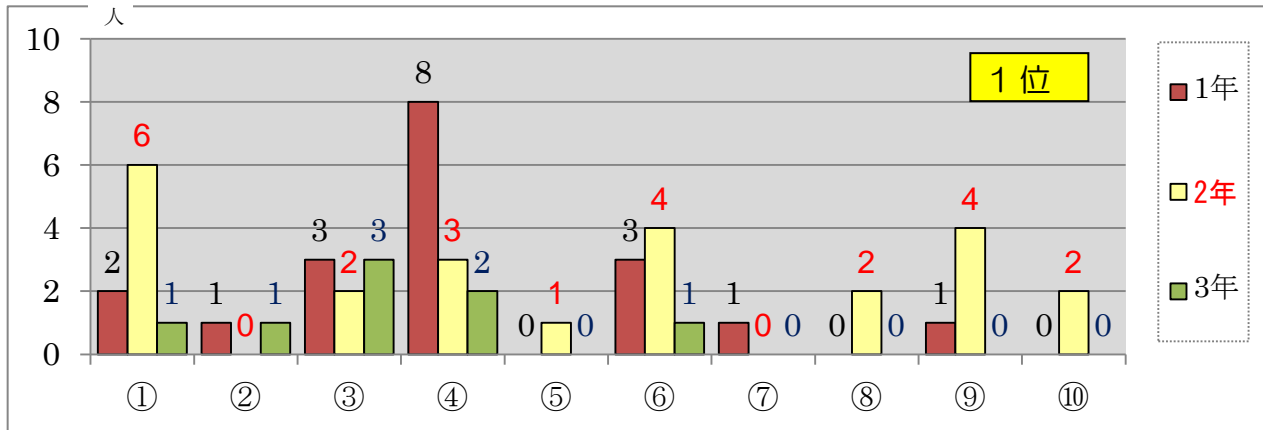


進学や就職にどれだけ有利か、 どの高校へ行けるのか分からない



- ① 通学便 ② 伝統や校風 ③ 進路実績 ④ 教育内容面 ⑤ 施設設備面
 ⑥ クラブ活動面 ⑦ 市町からの色々な支援制度 ⑧ 親や家族のすすめ ⑨ 友人関係 ⑩ その他

<各学年別の人数では>



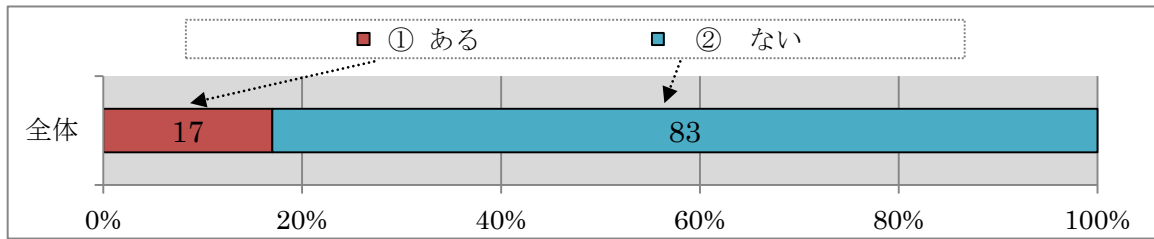
考察 ・2校全体での1位+2位で多い順は、1位：①「通学便」(17%)、2位：④「教育内容面」(16%)、3位：③「進路実績」⑥「クラブ活動面」(16%)となっている。

・各学年別に見たときの特徴として、1年生で最も多いのが④「教育内容面」、2年生は①「通学便」、3年生は③「進路実績」④「教育内容面」とそれぞれ違っている。

・年度によって多少の違いはあるものの、生徒が高校選択する時の重要項目としては、①「通学便」③「進路実績」④「教育内容面」⑥「クラブ活動面」に収れんできる。よって、それらが充実していくような取り組みや支援策を今後も検討していく必要がある。

Ⅱ. 油木高校生に係るアンケート調査の結果と考察

1 (1) あなたは本年度、中高連携で町内の中学生を指導したり、一緒に活動したことがありますか。

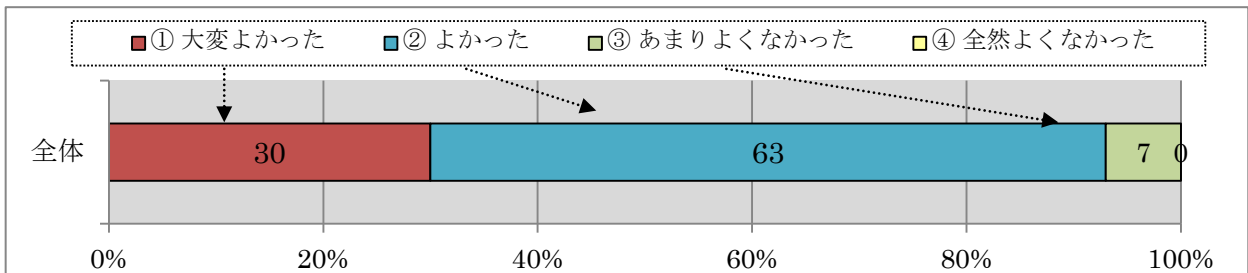


「ある」と答えた生徒は 30 人（17%）で、昨年度 23 人（13%）より若干増加している。

活動内容としては

- ・部活動（16 人）
- ・体育祭（7 人）
- ・文化祭（2 人）
- ・中体連試合審判（2 人）
- ・油高杯剣道大会（1 人）
- ・課題研究（1 人）

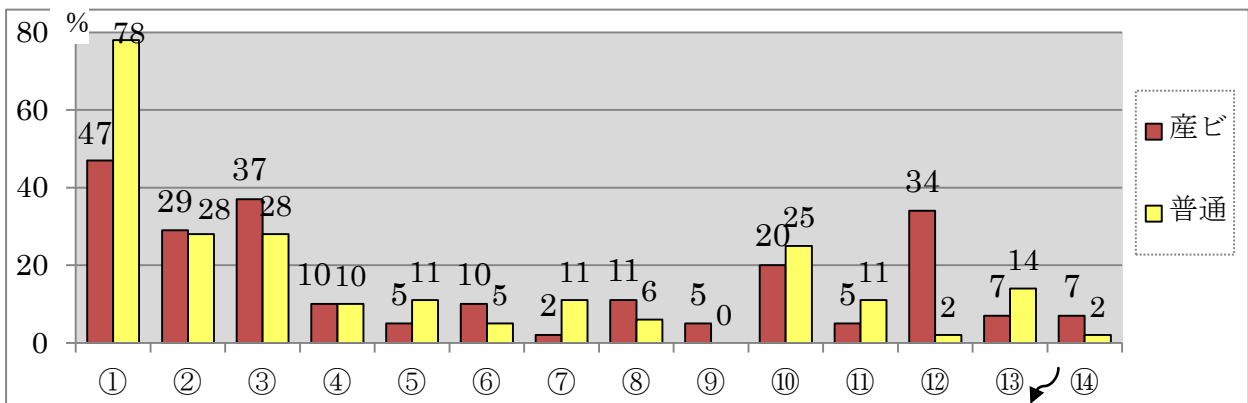
(2) (1)の質問で「①ある」と答えた人で、それはどうでしたか。



考察 生徒同士の交流人数は3年連続 10%台（12%→13%→17%）と相変わらず少ないが、今後もできるだけ多くの生徒が交流できるような場づくりを検討していく必要がある。 何故なら、上記(2)において交流した多くの生徒（93%）が「大変よかった・よかった」と非常に高い肯定的評価をしているからである。

2 あなたが油木高校を進路選択した理由は何ですか。（複数回答可）

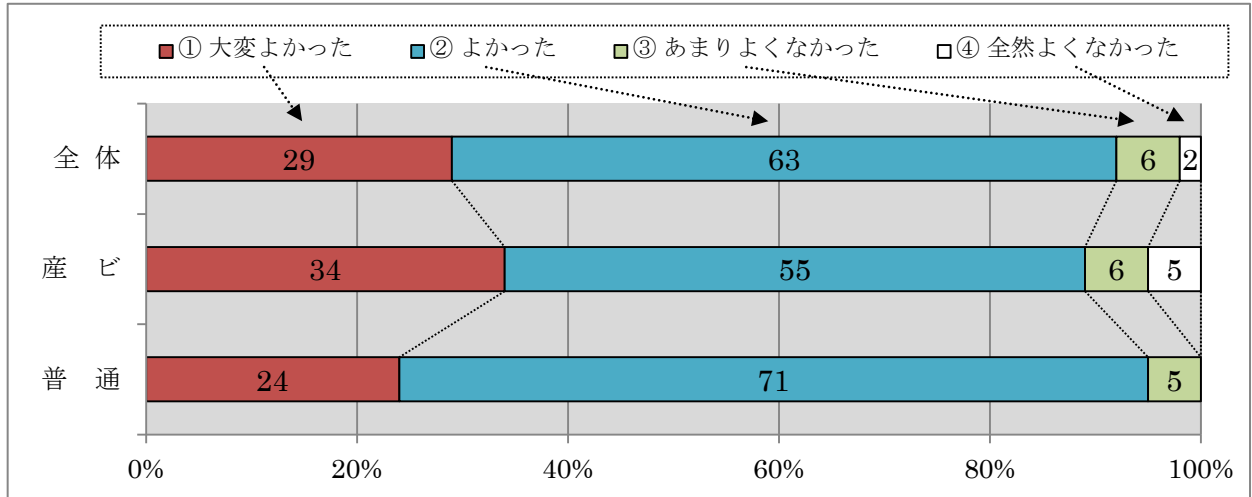
- ① 自宅から近い
- ② 親・家族の薦め
- ③ 自分の希望
- ④ 教育内容面
- ⑤ クラブ活動面
- ⑥ 寮がある
- ⑦ 通信衛星授業がある
- ⑧ 進路実績
- ⑨ 評判
- ⑩ 友人関係
- ⑪ 経費が安い
- ⑫ 学科への興味
- ⑬ 地域の応援や町からの色々な支援制度がある
- ⑭ その他（ ）



先生の薦め(3), 知人の薦め, 学力的に, 第一志望が不合格のため, 家から遠いから

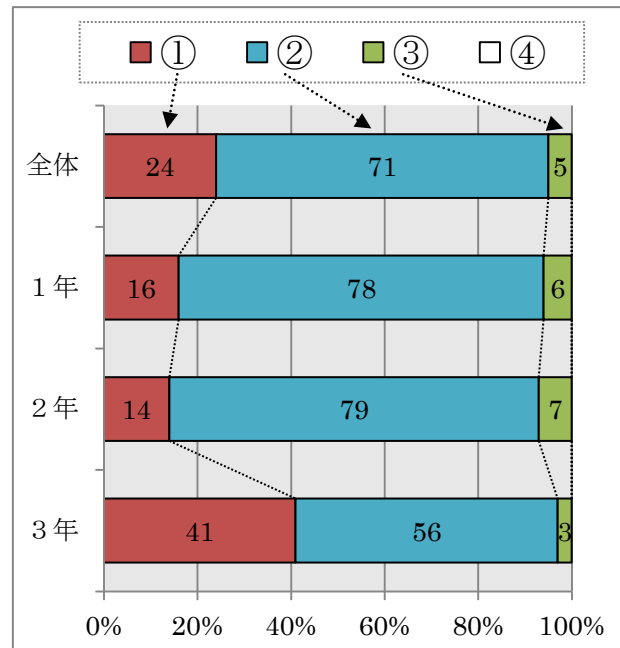
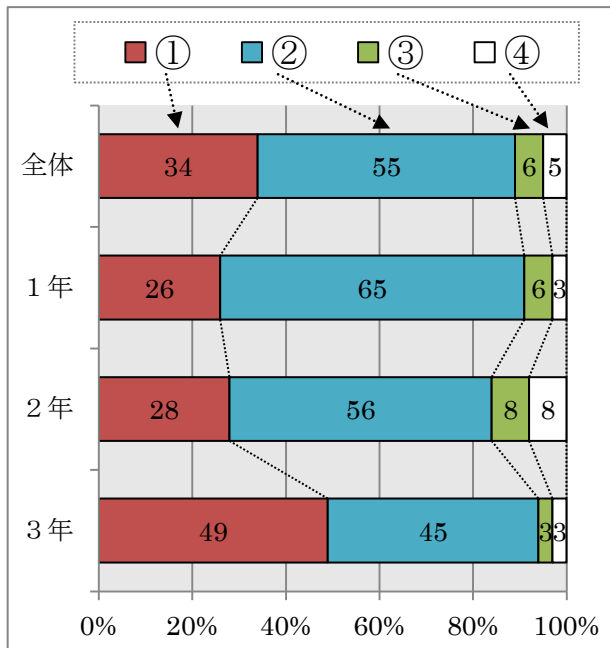
考察 全体的に多いのは、①「自宅から近い」②「親・家族の薦め」③「自分の希望」⑩友人関係が多い。学科ごととみると、普通科は圧倒的に①「自宅から近い」が多く、産業ビジネス科では、⑫「学科への興味」が非常に多いのが特徴としてあげられる。

③ あなたは油木高校へ進学して、どうですか。



<産業ビジネス科>

<普通科>



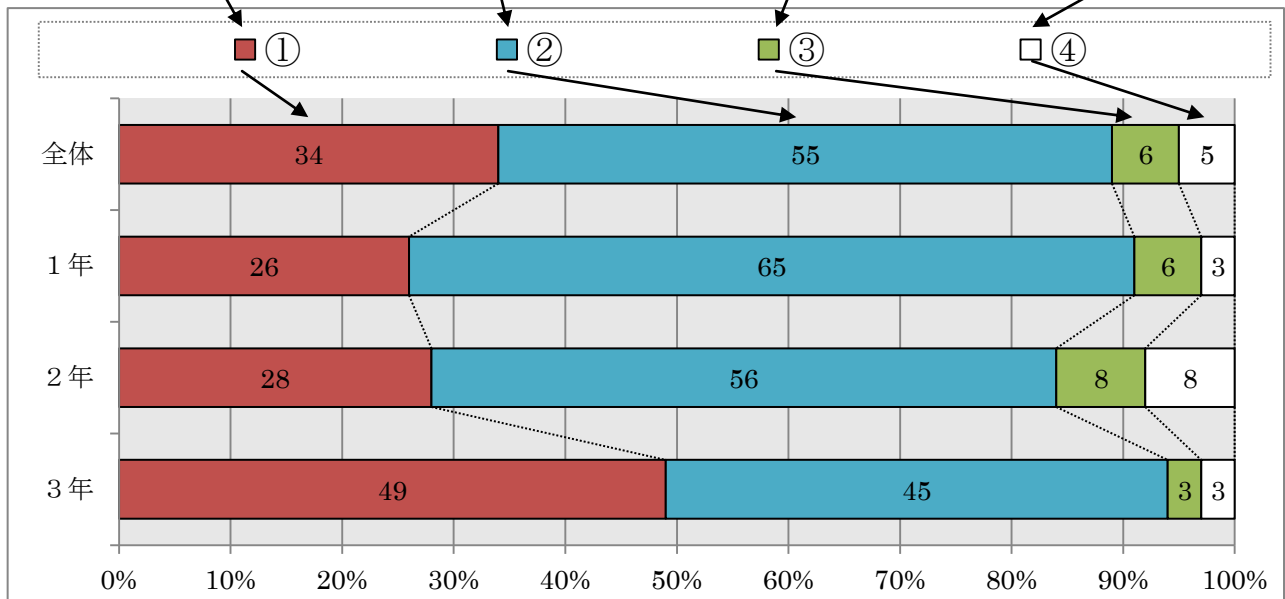
考察 全体的には例年と同様に多くの生徒（92%：昨年度 93%）が「よかった」と肯定的評価をしている。しかし、「大変良かった」とする者は、29%とここ3年間で減少傾向（45% → 35% → 29%）にある。

学科ごととみると、「よくなかった」と否定的評価をしている生徒は、産ビ 11%、普通科 5%であった。その中で、「全然よくなかった」とする生徒は、普通科 0%、産ビ 5%で、どの学年にも多少いる。

学年ごとでは、例年と同様ではあるが両科とも3年生の満足度が一番高い。これは学校としての教育の喜びや成果が伺える。

4 (1) 本町では「油木高校生への7つの支援」を実施していますが、その内容について知っていますか。

① だいたい知っている ② 4～5つ知っている ③ 2～3ぐらい知っている ④ ほとんど知らない



考察 「4つ以上は知っている」が80%以上で認知度はある程度高いが、「ほとんど知らない」も5%あり、今後も引き続き広報活動に努めながら、油木高校の魅力のアピールしていく必要がある。

なお、「油木高校生への7つの支援」パンフレットの学校送付時には、機会を捉えて生徒への紹介をお願いします。

(2) 本年度、通信衛星授業を受けたことのある人だけ教えてください。

[受講回答者 57人 (普通科：45人、産ビ科：12人)]

Q 通信衛星授業を受けてみての感想はどうですか？ また、そう思う理由で、具体的に何かあれば書いてください。

① 大いに役に立つ ② 少し役に立つ ③ あまり役に立たない ④ 全然役に立たない



	普通科 (1・2・3年)	産ビ科 (1・2・3年)	計 (%)	理由
①	14人 (2・3・9人)	3人 (0・1・2人)	17人 (30%)	・まだ習ってないところが分かりやすく学べる ・復習が出来る ・受験のためになって良い
②	19人 (7・4・8人)	5人 (2・2・1人)	24人 (42%)	・授業より説明が詳しい ・時間をかけて教えてもらえる ・集中して出来る ・3年時に受験勉強に少し役立った ・ちょっとした補足説明がよい
③	10人 (6・2・2人)	1人 (1・0・0人)	11人 (19%)	・直接的に教えてくれない ・時間が長い ・一人一人のペースが違うから ・自分に合っていなかった
④	2人 (0・2・0人)	3人 (2・0・1人)	5人 (9%)	・授業で習っていない所が多くてついていけない ・難しい

考察 受講生の多くは普通科生（79%）であるが、大多数の生徒（72%）が「役に立つ」との肯定的回答であった。その理由に「復習、大学受験等に役立つ」などをあげている。また、前述 8ページの問2においても、油木高校を選択した理由に「通信衛星授業がある」ことをあげている者（11%）もいることなどから、この事業の継続は必要と思われる。

(3) 1, 2年生のみ教えてください。

Q 来年度、通信衛星授業を受けますか。

① 受ける ② 受けない ③ わからない

	(1) 普通科			(2) 産業ビジネス科			合計 (1)+(2)
	① 1年生	② 2年生	①+② (%)	③ 1年生	④ 2年生	③+④ (%)	
① 受ける	2人	6人	8人 (13%)	0人	1人	1人 (2%)	9人 (8%)
② 受けない	16人	16人	32人 (52%)	23人	17人	40人 (71%)	72人 (61%)
③ わからない	15人	7人	22人 (35%)	8人	7人	15人 (27%)	37人 (31%)

考察 現時点での受講希望者は9人（8%）と極めて少ないが、費用対効果等もあるので、少しでも受講生が増える取組や学習効果の上がる対策などが望まれる。

(4) 本年度、「はやぶさ塾」に参加したことのある人だけ教えてください。

[受講回答者 32人（普通科：26人、産ビ科：6人）]

Q 「はやぶさ塾」に参加してみた感想はいかがですか。

① 大いに役に立つ ② 少し役に立つ ③ あまり役に立たない ④ 全然役に立たない

	普通科 (1・2・3年)	産ビ科 (1・2・3年)	計 (%)	理由
①	12人 (4・5・3人)	2人 (1・1・0人)	14人 (44%)	・分からないところが聞ける(2) ・自分のペースで出来る(2) ・分かりやすく教えてもらえる ・大学受験に役立った ・成績が向上した ・勉強方法が知れた
②	14人 (8・4・2人)	2人 (1・1・0人)	16人 (50%)	・分からない所を分かりやすく教えてもらった ・英語で中学の復習から出来た ・センター試験の問題をすることが出来た ・勉強の仕方を相談できた
③	0人	0人	0人 (0%)	
④	0人	2人 (1・1・0人)	2人 (6%)	

考察 受講回答者は32人あったが、実際の受講生は28人で、その内途中退塾者は2人あった。本年度から全学年を対象に実施され、昨年度と比較して受講生は4人増えた。受講者の評価としては、「役に立つ」との肯定的評価が94%とほとんどの生徒が役立ち感を持っている。今後、学校・町・業者の3者協議をもって1年間を総括しながら、次年度一層の費用対効果が上がるよう取り組んでいく必要がある。

(5) 1, 2年生のみ答えてください。

Q 来年度、「はやぶさ塾」に参加したいですか。



① 参加したい ② 参加したくない ③ わからない

	(1) 普通科			(2) 産業ビジネス科			合 計 (1)+(2)
	① 1年生	② 2年生	①+② (%)	③ 1年生	④ 2年生	③+④ (%)	
① 参加したい	6人	4人	10人 (17%)	1人	1人	2人 (4%)	12人 (11%)
② 参加したくない	7人	13人	20人 (34%)	20人	18人	38人 (70%)	58人 (51%)
③ わからない	18人	11人	29人 (49%)	9人	5人	14人 (26%)	43人 (38%)

考察 現時点での「受講希望者」は、12人(11%)であるが、受講許容人数50人にはまだ十分な余裕があるため、「わからない」が38%いるので、新1年生も含めて、十分な紹介が必要である。

(6) 1, 2年生のみ答えてください。

Q 来年度、オーストラリア海外研修への参加希望がありますか。



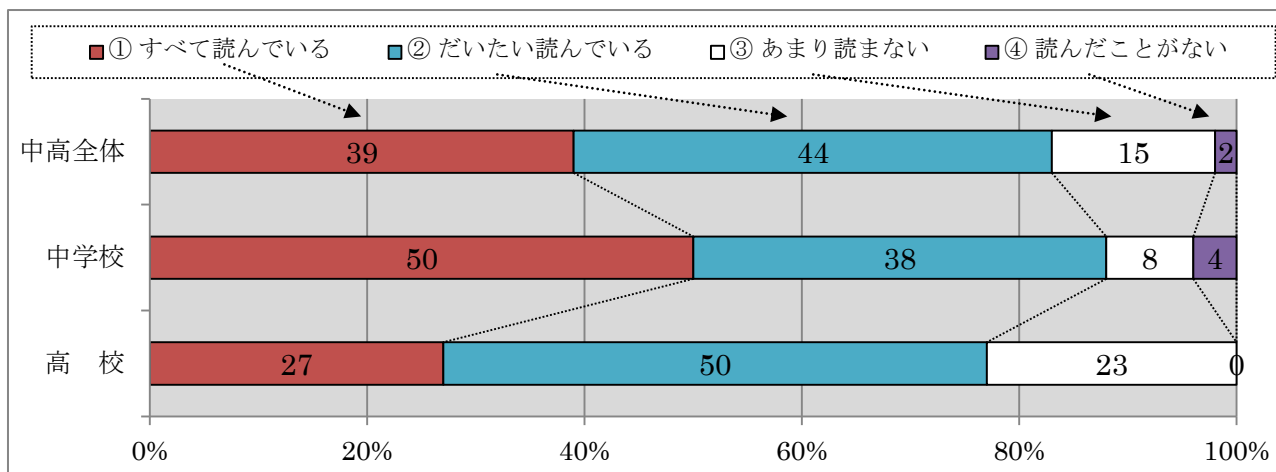
① 希望あり ② 希望なし ③ わからない

	(1) 普通科			(2) 産業ビジネス科			合 計 (1)+(2)
	① 1年生	② 2年生	①+② (%)	③ 1年生	④ 2年生	③+④ (%)	
① 希望あり	4人	6人	10人 (16%)	4人	4人	8人 (15%)	18人 (16%)
② 希望なし	18人	12人	30人 (49%)	16人	12人	28人 (51%)	58人 (50%)
③ わからない	10人	11人	21人 (35%)	10人	9人	19人 (34%)	40人 (34%)

考察 現段階の調査では、18人の参加希望者であるが、本年度は大学受験にあまり影響しない1・2年生を中心に募集をかけられた結果、普通科3名(全員2年)、産比科1名(3年)の申込があり実施された。来年度は更に英検3級以上取得者の条件を加えるなかで、参加者数6名と枠を拡げて実施の予定である。

Ⅲ. 町内中学校・油木高校教職員 に係るアンケート調査の結果と考察

- 1 広報紙「中高一貫教育ジャーナル『高原の風』」・「神石高原町が実施している油木高校生への7つの支援」パンフレットや「油木高校ガイドブック」などを学校に配布していますが、読まれていますか。

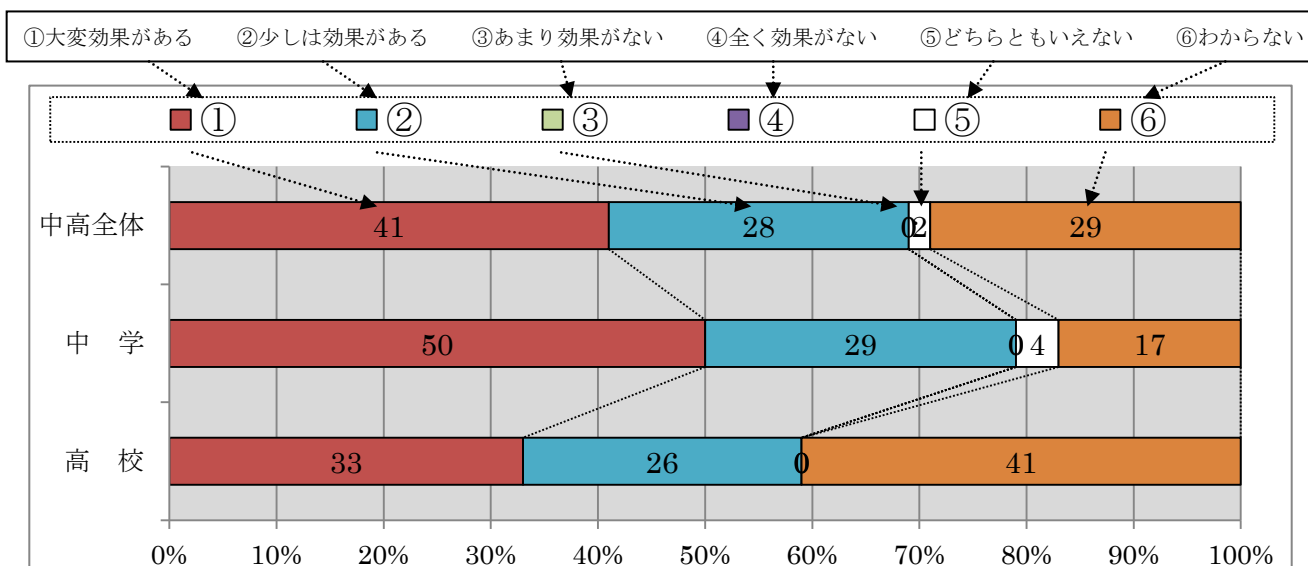


考察 80%以上の方はだいたい読んでおられるが、「あまり読まない」「読んだことがない」は例年になく多かった（17%、昨年：6%）。興味をもって読んで頂けるような中身づくりに努めていく必要がある。

- 2 中高連携の中で、交流授業、部活動交流、学校行事への参加、教職員の交流などが実施されていますが、連携教育の効果についてどう思われていますか。

(1) 定例的交流授業

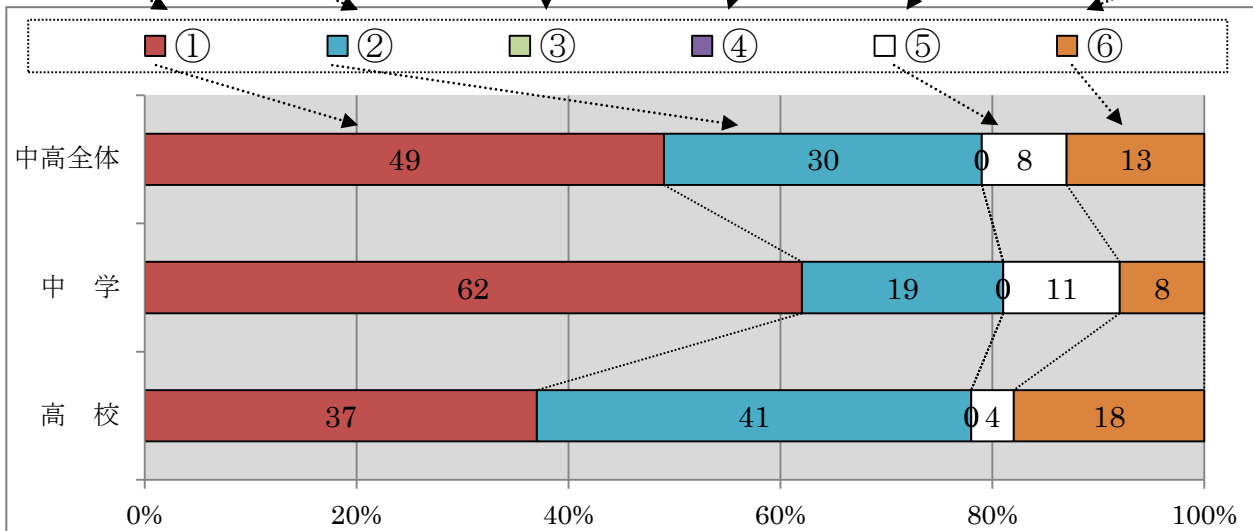
〔高→中：英語、中→高：音楽・英語〕について、どう思われていますか。



考察 本年度の交流授業は、中学校では数学から英語に、高校は前年度同様に音楽を選択生徒対象に、英語は1年生を中心に実施された。中高でそれぞれ実施状況は違うものの、中高共に半数以上が「効果がある」との肯定的評価であり、中でも中学校は「大変効果がある」とする数値が50%と最も高い。

(2) 部活動交流について、どう思われていますか。

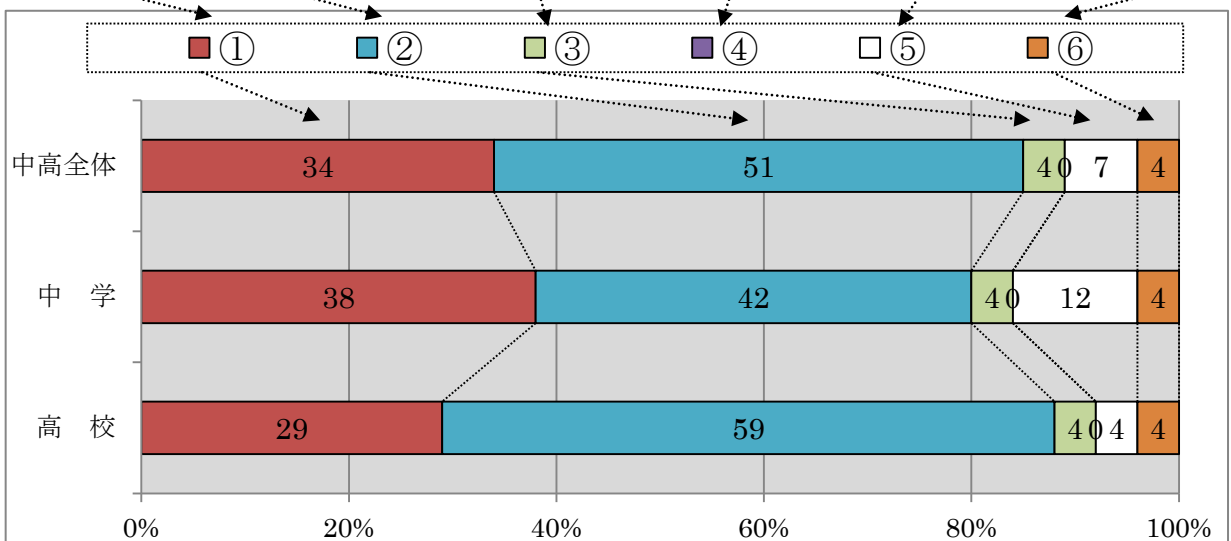
①大変効果がある ②少しは効果がある ③あまり効果がない ④全く効果がない ⑤どちらともいえない ⑥わからない



考察 全体的には、約80%の者が「効果がある」としている。中でも、中学校の62%が「大変効果がある」としており、高校側からすれば少し物足りない（37%）部分もあると思われるが、中学生が高校選択をする上で重要視しているものとして、「クラブ活動面」をあげている生徒が多い（第2位）だけに、今後においても「部活動交流」を充実させ、中高一貫教育の成果や高校入学率の向上につなげていければと考える

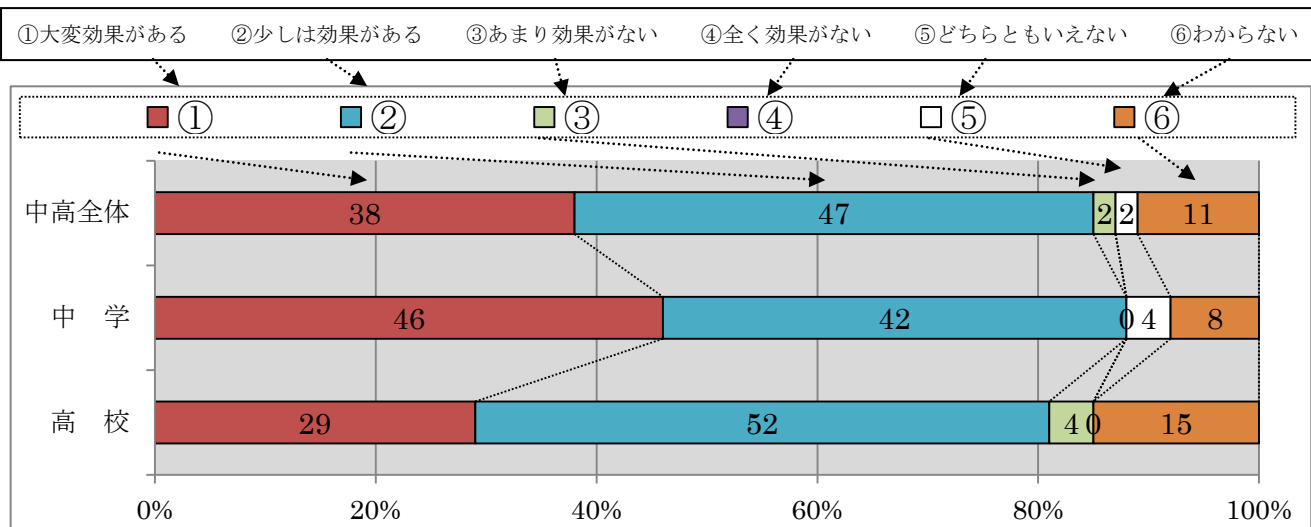
(3) 学校行事（体育祭・文化祭・学習成果発表会など）への参加について、どう思われていますか。

①大変効果がある ②少しは効果がある ③あまり効果がない ④全く効果がない ⑤どちらともいえない ⑥わからない



考察 全体では85%が「効果がある」とするものの、高校は「大変効果がある」が、昨年度は57%と半分以上であったのに対して、本年度は29%と半減している。今後においては、学校間で連携調整を図り、創意工夫しながら、教育効果が大いに認められるような行事連携が実践できるよう努めていく必要がある。

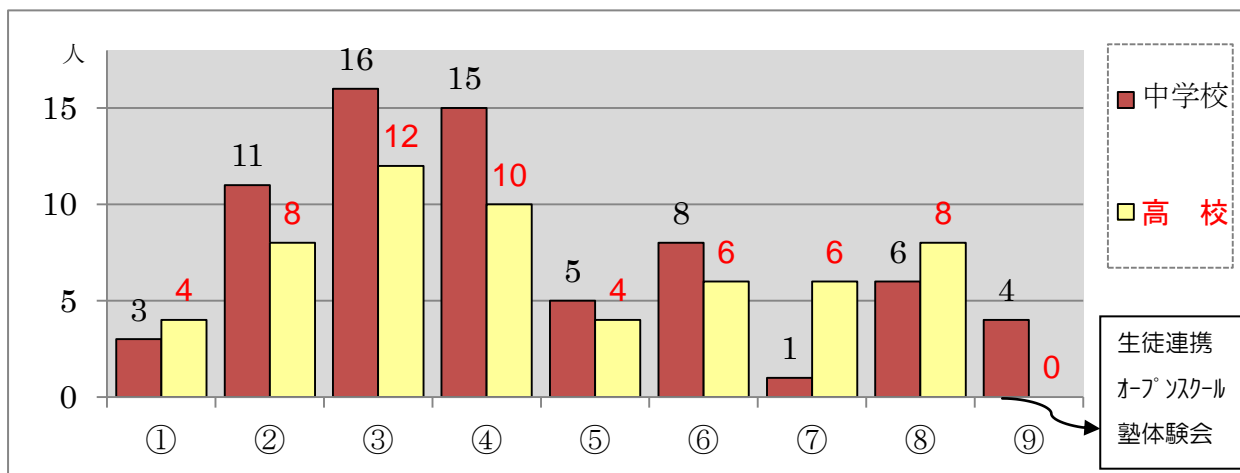
(4) 教職員の交流について、どう思われていますか。



考察 概して中高共に肯定的評価ではあるが、「大変効果がある」は高校が低い。それは中学校との連携が難しい教科があるのではないかと考えられる。しかし、今後の中高一貫教育推進委員会事務局レベルで各校の意見を集約しながら検討していくことが求められている。

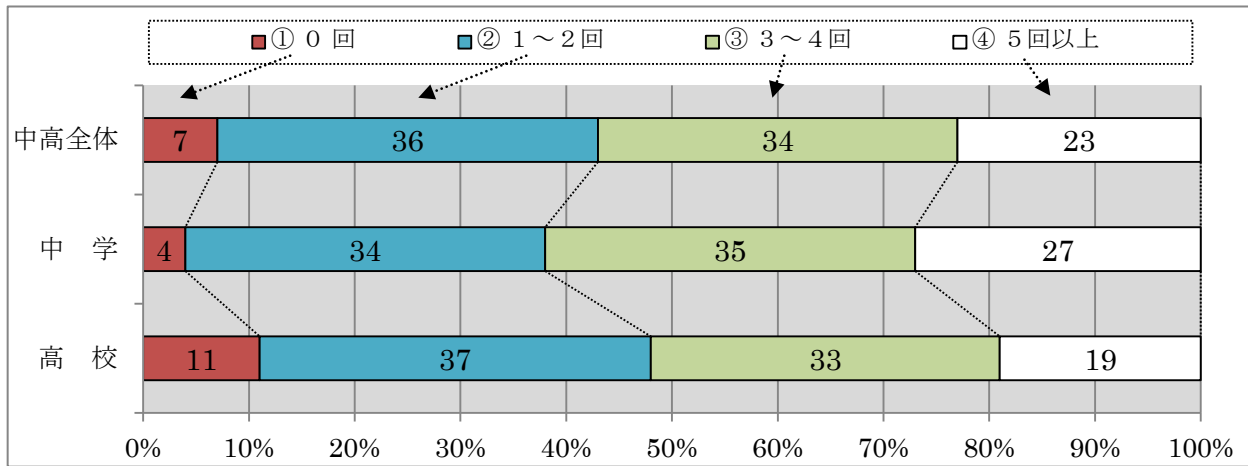
③ (1) 下欄①～⑩の中高一貫教育に係る取り組みの中で、本年度自分が参加したものについて、該当する番号にすべて○印をしてください。（複数回答可）

- ① 交流授業・出前授業 ② 部活動交流 ③ 町研夏季全体研修会
 ④ 教科部会（授業研究など） ⑤ 教科外部会（進路・生指・連携など）
 ⑥ 中高一貫教育講演会（10月17日） ⑦ 中高の公開研究会
 ⑧ 中高の行事（中→高、高→中の文化祭・体育祭への参加） ⑨ その他（ ）



考察 連携教育の3本の柱としている、教科連携→①・④・⑦、教科外連携→⑤、部活動・生徒会・行事連携→②・⑧を見た時、中高共に同じような傾向でだいたい参加されている。ただ、⑦「中高の公開研」へは高校の参加が中学校より遙かに多い。いずれにせよ、連携教育が一層充実していくために、推進委員会レベルでしっかりと検討を重ねていく必要がある。

(2) 上記 ③ (1)で、参加した回数は総合計で何回ありますか。

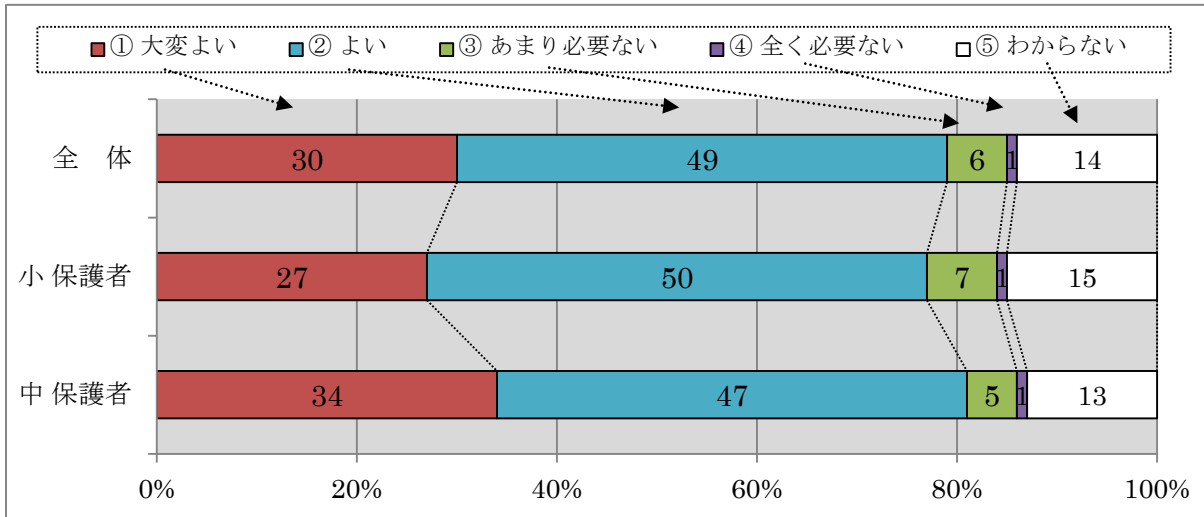


考察 参加回数ごとの割合では、一番多かったのは②1~2回で、二番目が③3~4回でした。

今後の中高一貫教育が一層充実発展していくためにも、できるだけ多くの教職員が本事業に関わっていく意識と学校体制づくりが重要と思われる。

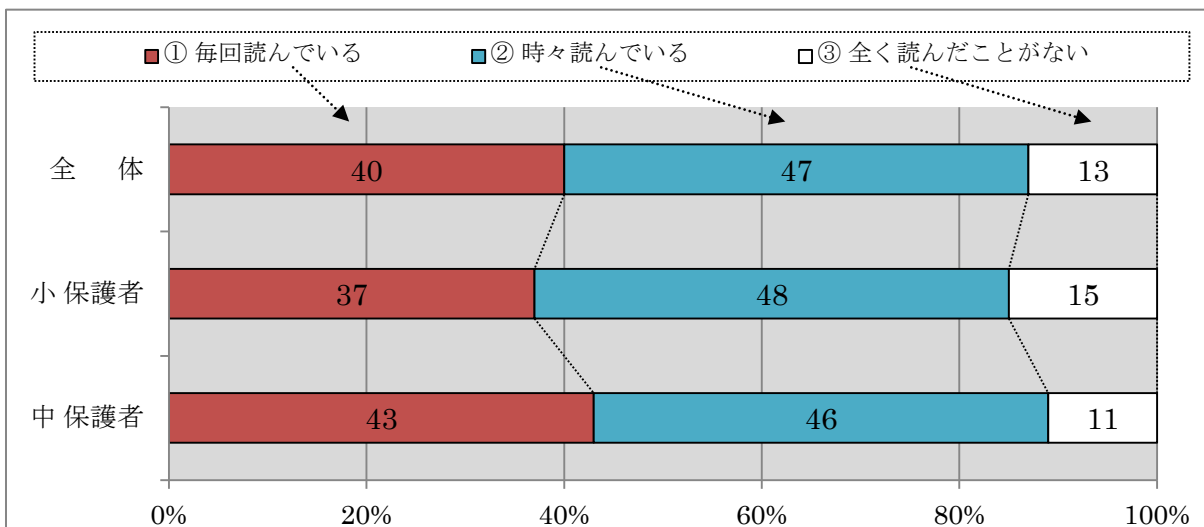
Ⅳ. 小学校(4～6年生)・全中学校 保護者 に係る調査の結果と考察

- ① 現在、油木高校と町内中学校との連携教育（例：中高交流授業、部活動交流、学校行事への相互参加、教職員の交流など）が実施されていますが、そのことについてどう思いますか。



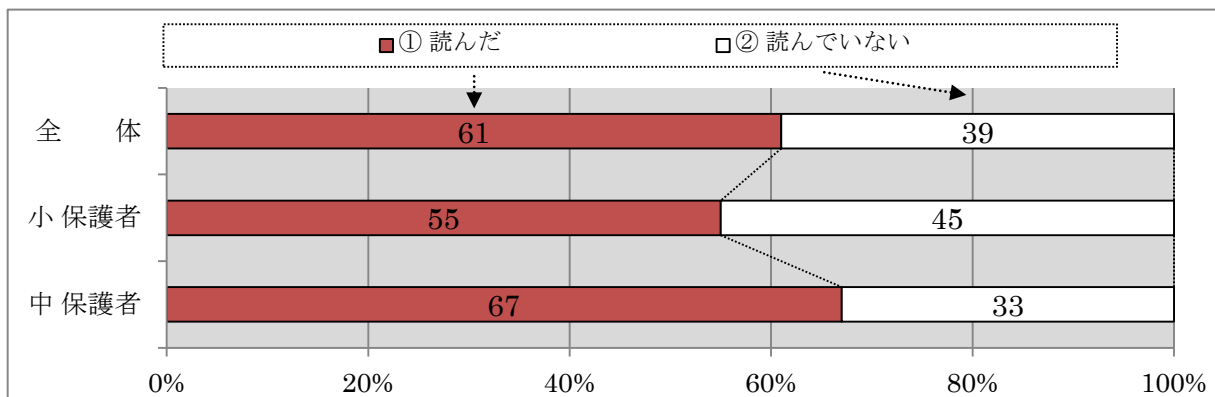
考察 全体としては「よい」とする肯定的評価が昨年（84%）とほぼ同様に高かった。しかし、「わからない」とする数値が小中学校共に 10%以上あり、連携教育を今後一層積極的に展開していく中で、その様子や効果について引き続き情報提供していく必要がある。

- ② 広報紙「連携型中高一貫教育ジャーナル『高原の風』」を年3回町内全戸に配布していますが、読んでおられますか。



考察 多くの保護者に読んで頂いている（87%）。「全く読んだことがない」は昨年と同数値であった。今後も「毎回読んでいる」が50%以上になるよう魅力ある中身づくりに努めていかなければならない。

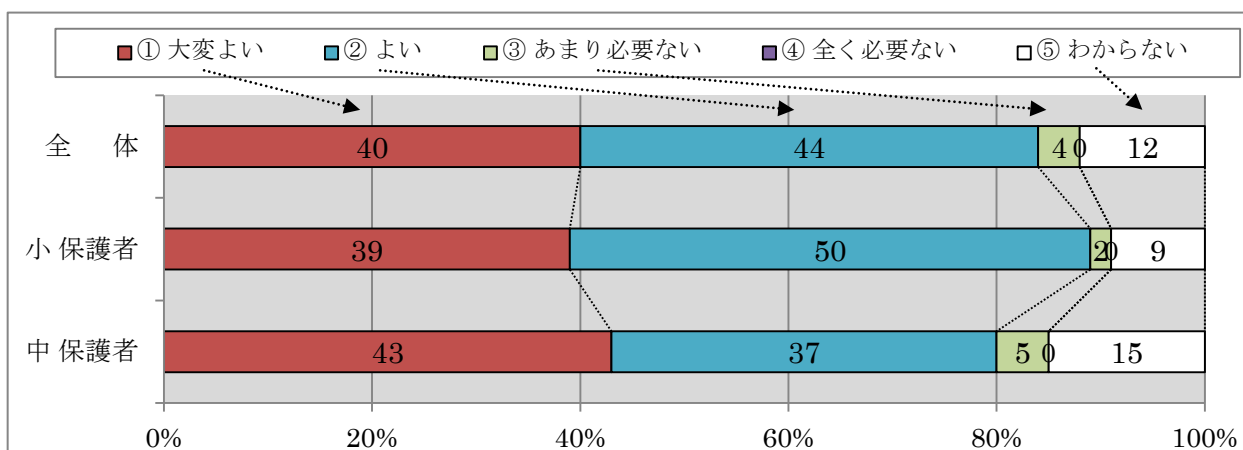
③ 昨年、町内全戸に配布した『神石高原町が実施している油木高校生への7つの支援』パンフレットを読まれましたか。



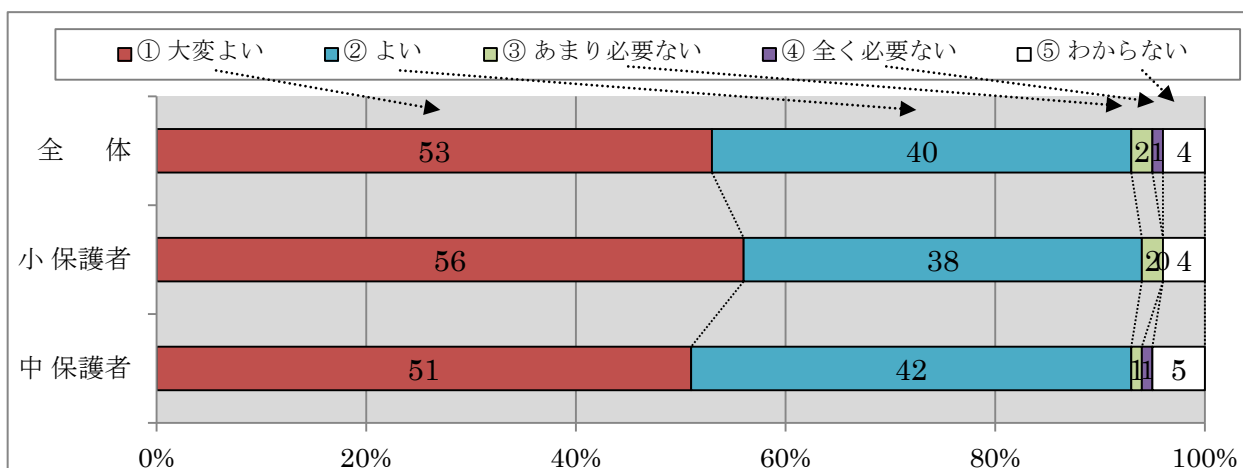
考察 全体としては61%（昨年51%）が読まれており、昨年度より10%上回っている。この「7つの支援」は、油木高校の魅力でもあるので、しっかりと関係保護者に知ってもらえるよう、今後もパンフレットの配布は継続していきたい。

④ 本町が油木高校の魅力策として様々な教育支援を実施していますが、それらについて、次の質問にお答えください。

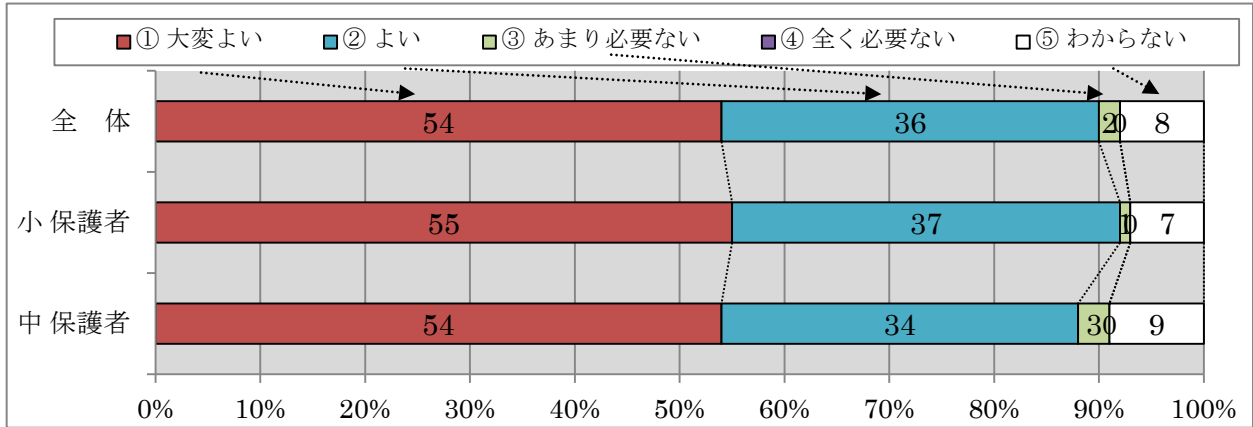
(1) 大手予備校の通信衛星授業の受信補助について、どう思いますか。



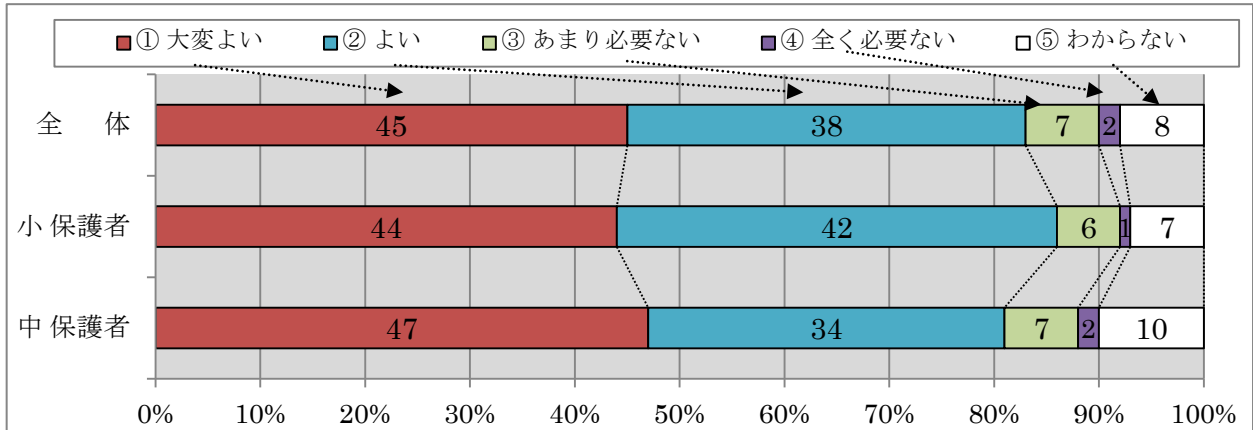
(2) 部活動での遠征費補助について、どう思いますか。



(3) 油木高校内での学習支援塾の開設について、どう思いますか。



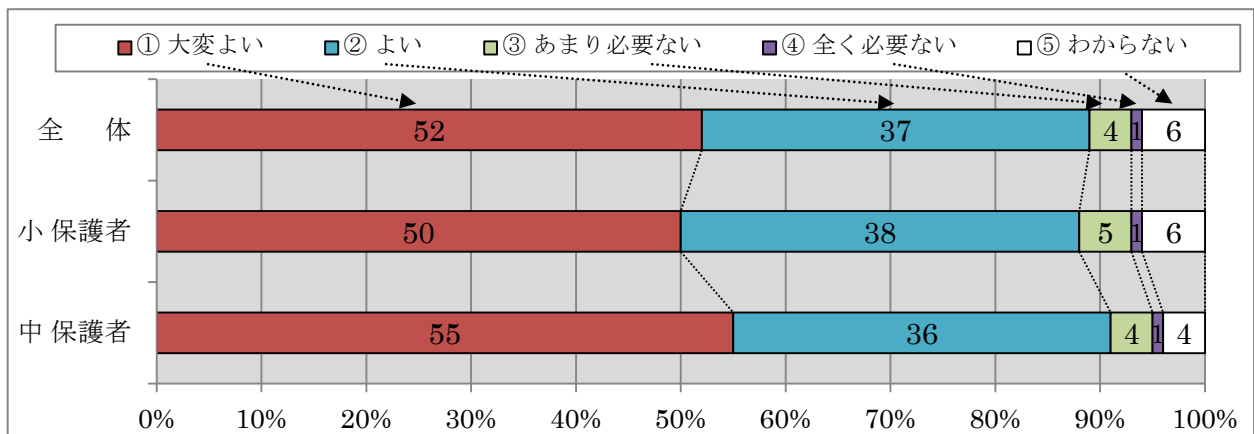
(4) 海外短期（語学・農業）研修事業への支援について、どう思いますか。



<保護者からの要望意見>

定員枠が4名と聞いているが、希望者が多い場合、枠を拡げるのは可能か？ 海外ともなると、その時の家庭の状況や本人のやる気が重なった時がベストな時期だと思うので、また来年チャレンジとかは難しいと思う。希望者はやる気のある子どもたちだと思う。4名以上の希望者が出た場合を考えて欲しい。(3年保護者)

(5) 英検・漢検の受検料補助（ただし合格者のみ）について、どう思いますか。



<保護者からの要望意見>

・挑戦することに意味があるのでは？ ・町外の生徒も補助して欲しい

考察 すべての項目において、80%以上の者が「よいことである」と肯定的評価をされている。中でも、「部活動遠征費補助」と「学習支援塾」については90%以上もの高い評価である。（昨年度と同様）

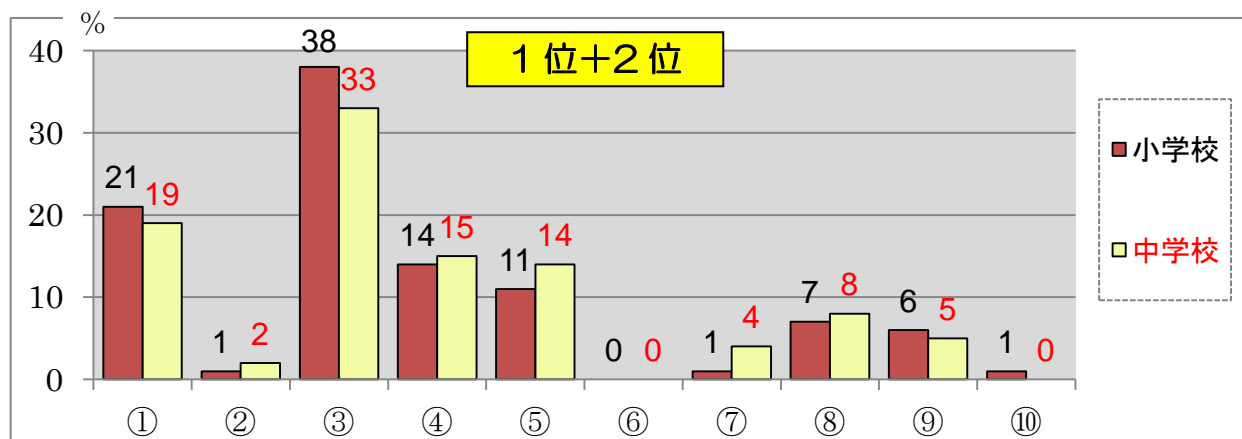
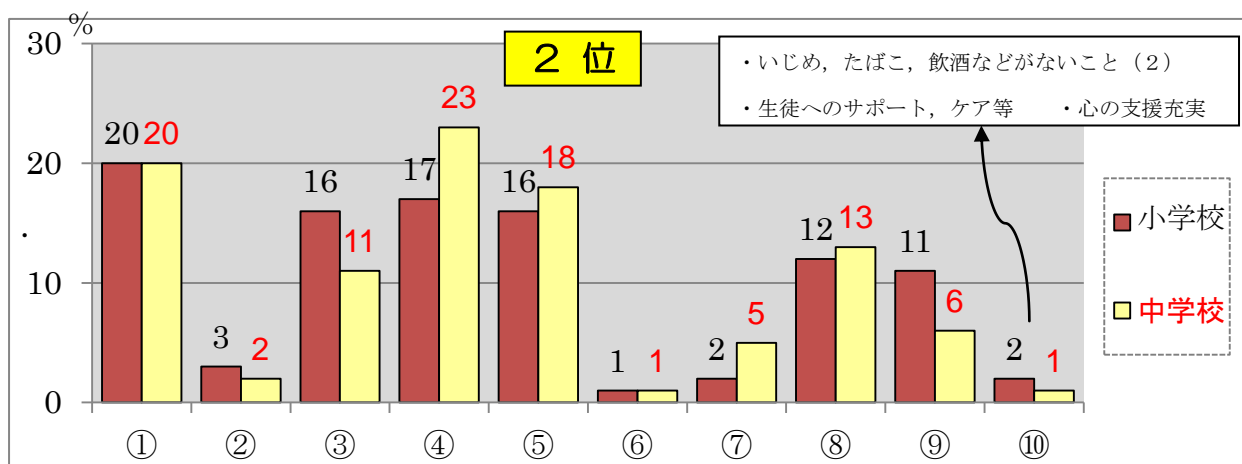
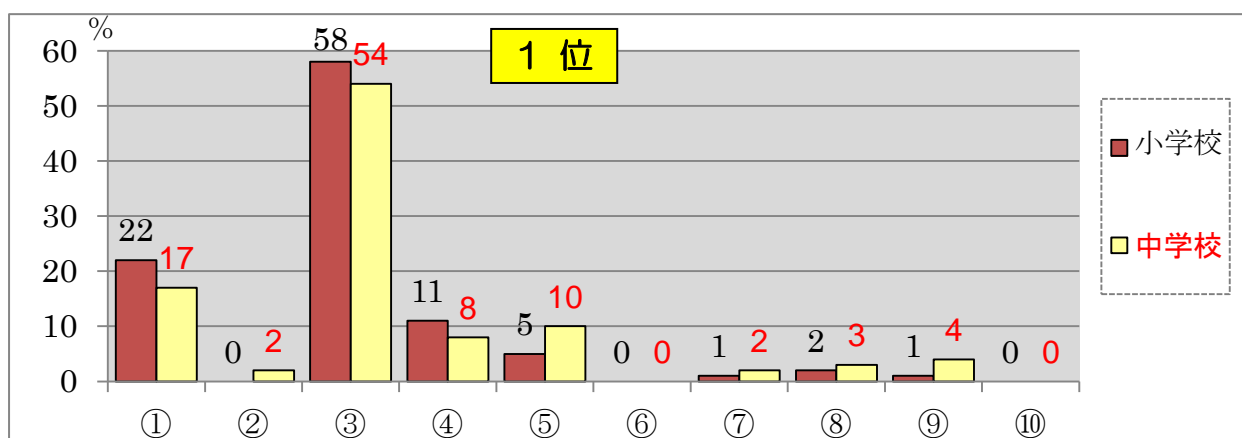
小・中学校別で見た時、あまり大きな差違は見られなかった。

これらのことから、すべての項目において保護者の期待度は高いだけに、今後とも支援制度の維持と中身の充実を図りながら、更なる油木高校の魅力づくりに繋げていく必要がある。

5) 子どもの高校進路選択をする上で、保護者として重要視したいことはどんなことですか。

下の①～⑩の中から重要視したい順番に2つ（1位・2位）選んでください。

- ① 通学便 ② 伝統や校風 ③ 子ども本人の希望 ④ 学習環境面 ⑤ 教育内容面
⑥ 施設設備面 ⑦ クラブ活動面 ⑧ 進路実績 ⑨ 経費面 ⑩ その他



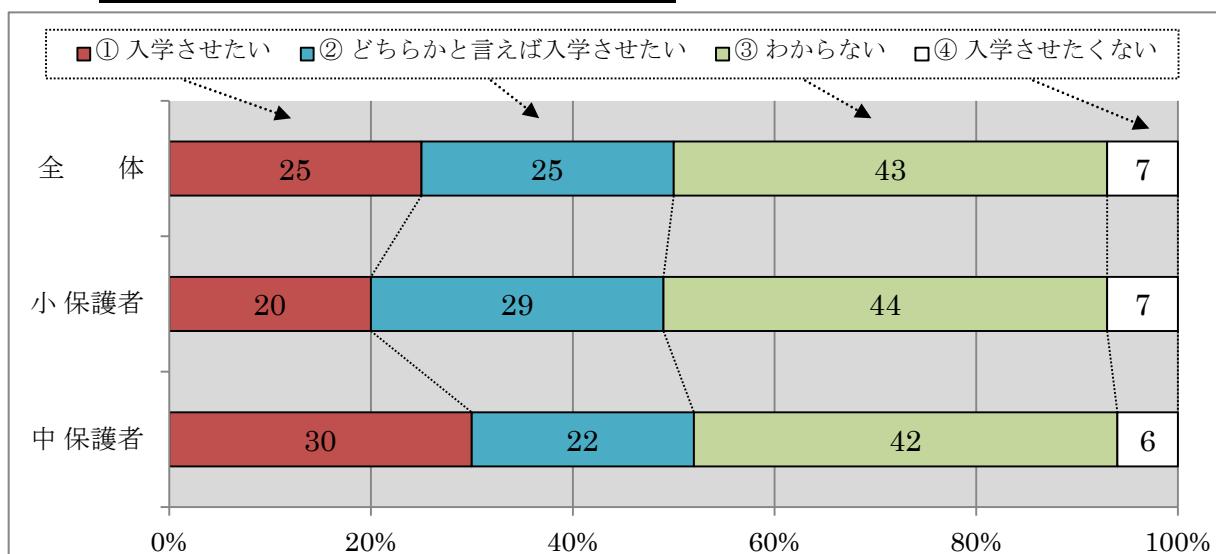
考察 小学校と中学校を比較した時、例年のごとくほとんど同じような傾向にある。

即ち、高校進路選択をする上で、保護者として重要視したいことで多いもの（1位+2位）としては、③「子ども本人の希望」が小中学校共に際立って多く、続いて①「通学便」④「学習環境面」⑤「教育内容面」である。

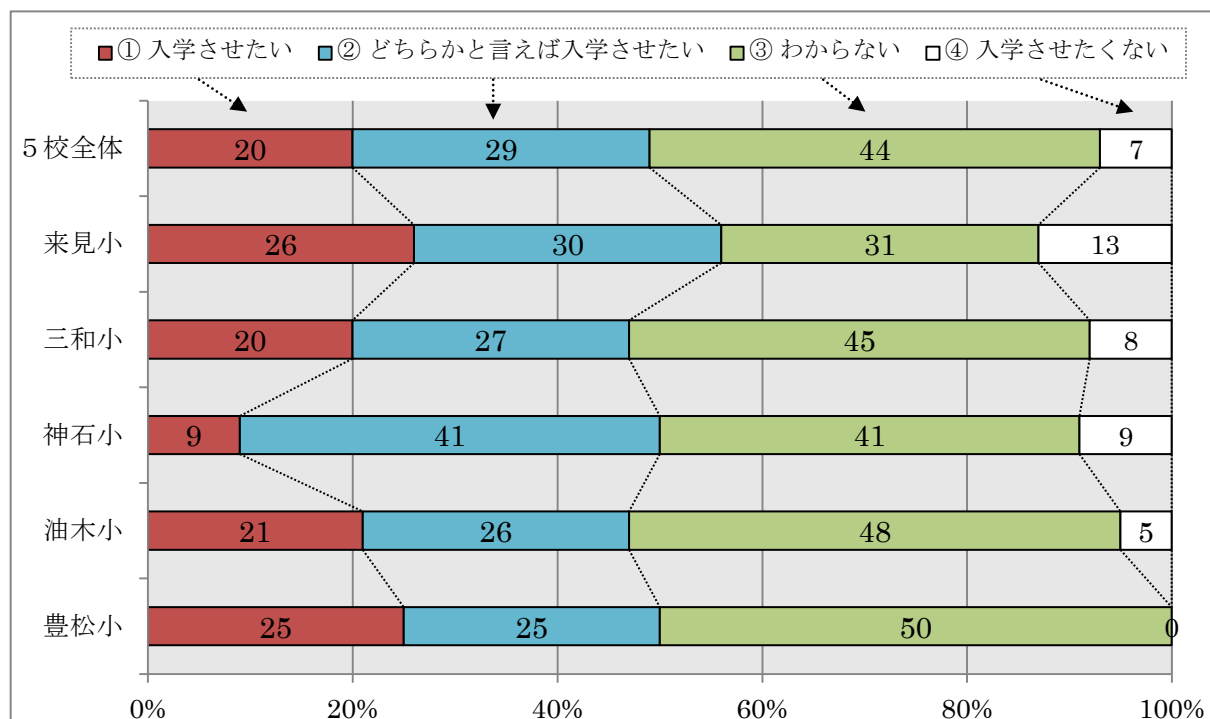
このことから、保護者の半数以上は「子ども本人の希望」を最優先される傾向にあり、児童・生徒への油木高校の理解や関心を深めていく取組みが重要である。

また、「通学便」もかなり重要度が高いことから、できる支援策を今後においても検討しながら、魅力アップにつなげていく必要がある。

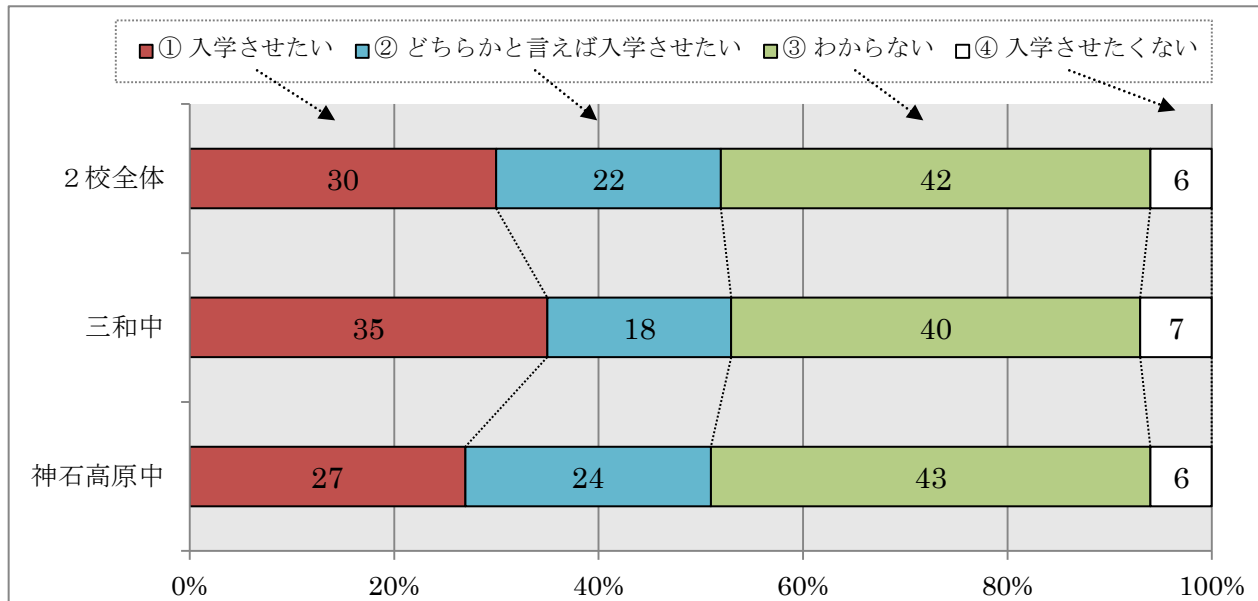
⑥ あなたの子どもさんを油木高校に進学させたいと思いますか。



<各小学校別では>



＜各中学校別では＞



＜保護者からの要望意見＞

- 一貫教育システムによって、学生の勉強意欲を減退させている（選考でほとんど入学できるため）。一番勉強すべき中高時代に、町内に残すためにハードルを下げるのは、長期的に見て人材育成にプラスでしょうか。大いに疑問を感じます。（1年保護者）
- 中高一貫で町内の中学生なら『誰でも入学できる』という雰囲気があるので、入学選抜のやり方にもう少し工夫が欲しい。高校に入学しても勉強していくという気持ちになりづらいと思う。折角今まで一緒に頑張ってきた仲間と高校生活を送ることが出来るので、力を合わせて高め合う子どもたちになって欲しい。今後の町を背負っていく若者に期待を込めて、一生懸命勉強やスポーツなどをして学校生活を有意義に送って欲しいと思う。（2年保護者）
- 油木高校に進学したからこそ町のために町のことを考えられる人材を育てて欲しいです。（2年保護者）

考察 ・全体としては、「入学させたい」が50%（昨年：50%、一昨年：46%）と昨年度と同数であった。

・小中学校別では、「入学させたい」が今までは10%以上中学校が上回っていたが、本年度は中学校が3%上回っているだけで、あまり差異は見られなかった。

・各学校別の小学校では、今までは多くの小学校（油木小だけが50%以上）が「入学させたい」肯定的回答が40%以下であったが、本年度初めてすべての小学校が40%以上で、中でも3校（来見小・神石小・豊松小）が50%以上であった。

・中学校は2校ともほぼ同じような回答率である。そして、両校とも「入学させたい」回答率が50%以上あった。しかし、小中学校共に「わからない」の回答が多だけに、今後の取組みによって「入学させたい」と思われるような教育実践や魅力づくりに向けて、学校現場と教育行政との両面から努力していく必要がある。

・「保護者からの要望意見」にもあるように、連携型選抜入試に関わって、中学生がいわゆる受験勉強に意欲を持って取り組むシステムづくりへの工夫が求められている。今後は中高校長会を中心に検討していく必要がある。

V. 町内地域に係るアンケート調査の結果と考察

- 1 下欄①～④の連携型中高一貫教育に関連する行事で、本年度参加されたものがあれば、該当番号に○印で教えてください。(複数回答可) ④の(1)～(8)の中で該当する番号にすべて○印で教えてください。(複数回答可)

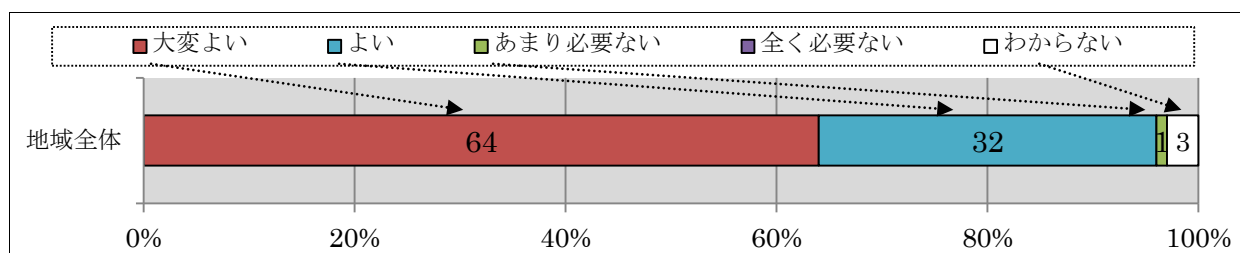
- ① 「連携型中高一貫教育支援会議」総会(6月21日)
 ② 「油木高校を育てる会」理事会(7月12日) ③ 中高一貫教育講演会(10月17日)
 ④ 油木高校に係る行事
 (1) 学園祭(6月18・19日) (2) 体育祭(9月24日)
 (3) 農業系の発表会(農業クラブ意見発表会など) (4) 部活動等の大会(地区、県、全国大会など)
 (5) 総合的な学習成果発表会(「明日ある我ら」発表会) (6) ヒューマンフェスタ(11月5日)
 (7) 油木高校ナマズ料理の日(毎月第4日曜日) (8) その他【 】

◀ 回答頂いた方は 97名/100名(97%)でした。 その中で参加された人数内訳は次の通りです。 ▶

行事名	① 支援会議総会	② 油木高校を育てる会理事会	③ 中高一貫教育講演会	④ 油木高校に係る行事								
				(1) 学園祭	(2) 体育祭	(3) 農業系発表会	(4) 部活動	(5) 学習成果発表	(6) ヒューマンフェスタ	(7) 油高ナマズ日	(8) その他	
参加人数	本年	47人	21人	31人	10人	12人	2人	7人	8人	19人	7人	4人
	昨年	41人		38人	17人	14人	9人	10人	9人	17人		3人

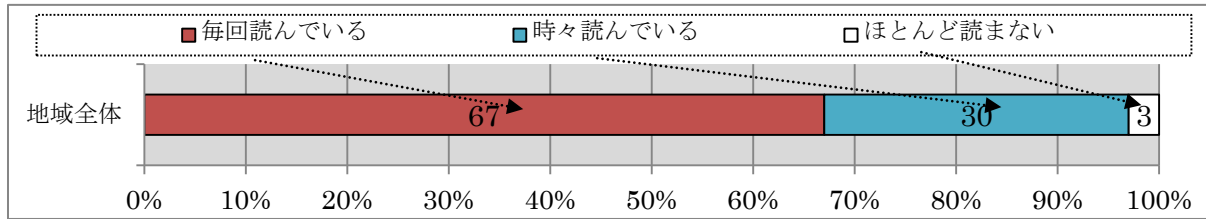
考察 地域編のアンケート調査は中高一貫教育支援会議役員を対象に実施し、回答率97%で、その内、支援会議主催行事への参加率は「①支援会議総会」が47%、「③中高一貫教育講演会」が31%であった。また、油木高校の色々な行事に毎年熱心にご参加いただいております。地域の温かい理解と支援に感謝しながら、中高一貫教育が更に発展するよう努力していく必要がある。反省点として、「行事で連携校同士の同一日開催は避けて欲しい」という要望が多数あり、来年度はこのようなことがないように出来るだけ配慮していく必要がある。

- 2 現在、油木高校と町内中学校との連携教育(例：中高交流授業、部活動交流、学校行事への相互参加、教職員の交流など)が実施されていますが、そのことについてどう思いますか。



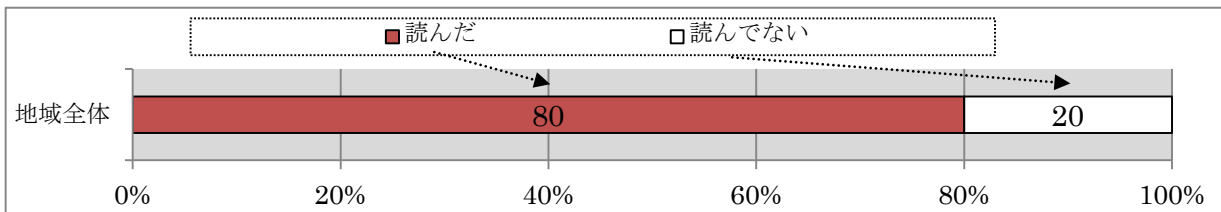
考察 地域のほとんどの方々(96%)は、中高連携教育を「よい」とする肯定的評価であるが、極少数ながら「あまり必要ない」との否定的評価もあり、今後更なる中身の充実を図り、情報提供していく必要がある。

③ 広報紙「連携型中高一貫教育ジャーナル『高原の風』」を年3回町内全戸に配布していますが、読まれていますか。



考察 「毎回読んでいる」が76% → 67%に減少したものの、多くの方々に読んで頂いている。今後一層「毎回読んでいる」が向上していくよう中身の充実に努めていかなければならない。

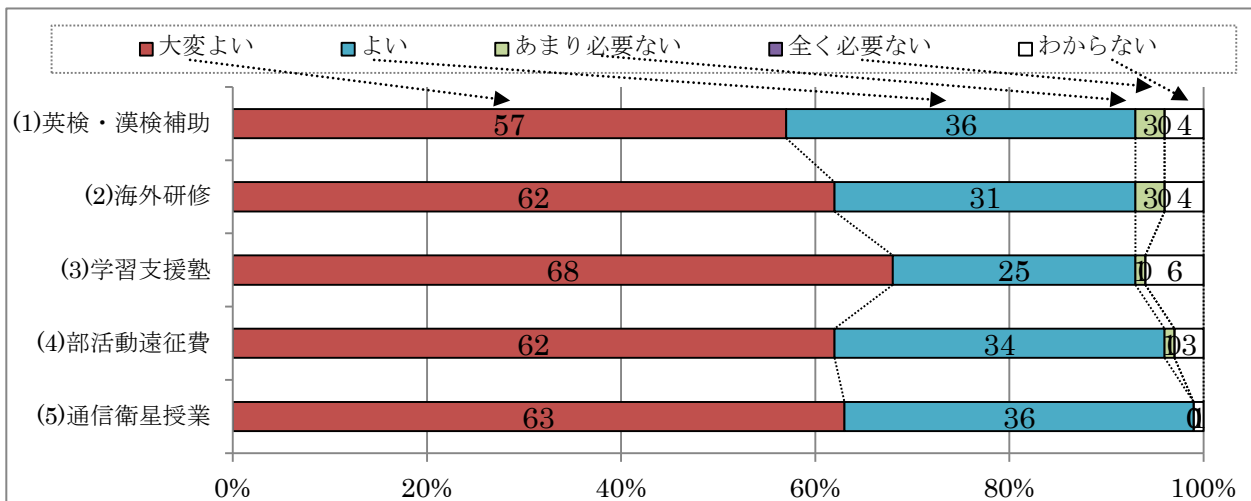
④ 昨年、町内全戸に配布した『神石高原町が実施している油木高校生への7つの支援』パンフレットを読まれましたか。



考察 本年度も多くの方々（80%）に読んで頂いているが、「読んでない」が20%あることや、この「7つの支援」は、油木高校の魅力でもあるので、しっかりと地域の方々に知ってもらい、意見も頂きながら検討していくためにも、パンフレットの配布は今後も継続していかなければならないと考える。

⑤ 本町が油木高校の魅力策として様々な教育支援を実施していますが、それらについて、次の質問にお答えください。

- (1) 英検・漢検の受検料補助（合格者のみ）について、どう思いますか。
- (2) 海外短期（語学・農業）研修事業への支援について、どう思いますか。
- (3) 油木高校内での学習支援塾の開設について、どう思いますか。
- (4) 部活動での遠征費補助について、どう思いますか。
- (5) 大手予備校の通信衛星授業の受信補助について、どう思いますか。



考察 各項目とも「大変よい」「よい」を合わせて90%以上を占めており、肯定的評価が非常に高い。しかも「大変よい」が50%以上あり、最も多い。
この数値が示すように、地域住民の期待も大きいことから、今後もこれらの支援は継続していく必要がある。